NEVER MIND THE BOLLOCKS



BAND SCORE

SEX PISTOLS "NEVER MIND THE BOLLOCKS"

セックス・ピストルズ ● 勝手にしやがれ!!

HOLIDAYS IN THE SUN | BODIES | NO FEELINGS | LIAR GOD SAVE THE QUEEN | PROBLEMS | SEVENTEEN | ANARCHY IN THE U.K. SUB MISSION | PRETTY VACANT | NEW YORK | EMI

WARNER/CHAPPELL MUSIC, JAPAN K.K.



HOLIDAYS IN THE SUN > 3

さらばベルリンの陽

BODIES > 13

お前は売女

NO FEELINGS>17

分ってたまるか

LIAR > 25

ライヤー

GOD SAVE THE QUEEN > 35

ゴッド・セイヴ・ザ・クイーン

PROBLEMS>41

怒りの日

SEVENTEEN > 54

セヴンティーン

ANARCHY IN THE U.K. > 60

アナーキー・イン・ザ・U.K.

SUB MISSION > 68

サブ・ミッション

PRETTY VACANT > 79

プリティ・ヴェイカント

NEW YORK > 86

ニューヨーク

EMI > 95

拝啓EMI殿

Back Cover Photo by Brad Elterman / ORION PRESS

HOLIDAYS IN THE SUN

さらばベルリンの陽

Words & Music by Steve Jones, Paul Cook, John Rotten and Sid Vicious

アルバムのオープニングにふさわしい、パワフルなナンバーだ。 イントロでの足音やヴォーカルのバックで使われているコーラス (というよりはかけ声) などのS.E.も生かせれば一層雰囲気が盛 り上がるだろう。ヴォーカル・パートはテクニック的にどうのと ハう次元の問題のものでは無いので、このスタイルを自分なりに ハかに消化して歌うかということが課題になる。ダーティーな表 現法や彼独特の語尾の歌いまわしなどに注意して、あとは自由な フィーリングで歌いこなそう。ギターはアンプに直接プラグ・イ ンしたようなストレートなサウンドだ。オーバー・ドライブはで

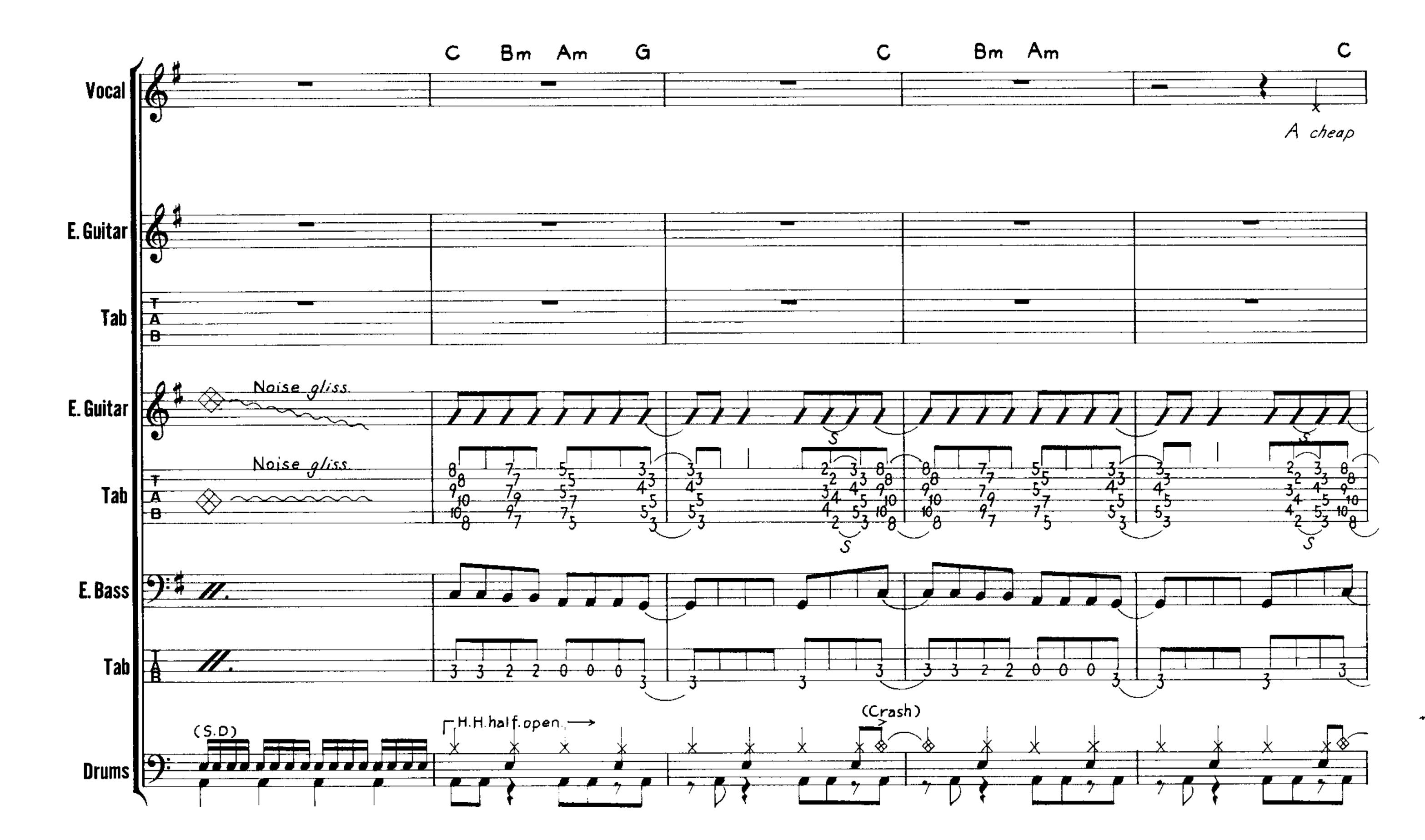
きるだけアンプによって歪ませた方がコード・サウンドがクリー ンなものになるはずだ。あまり高音域を強調しないセッティング でコシのある太い音をつくりだそう。固では深めのブリッジ・ミ ユートでタイトさを感じさせること。ギター・ソロはアドリブで は無くパターン化されたものだ。力強いピッキングでガッツのあ るプレイを心がけよう。ベースは8分弾きがほとんどだが、8分 音符のアンティシペーションのタイミングをドラムスに合わせる ように注意すること。ドラムス・パートではギター・ソロのバッ クのパターンが一風変わっているので気をつけたい。

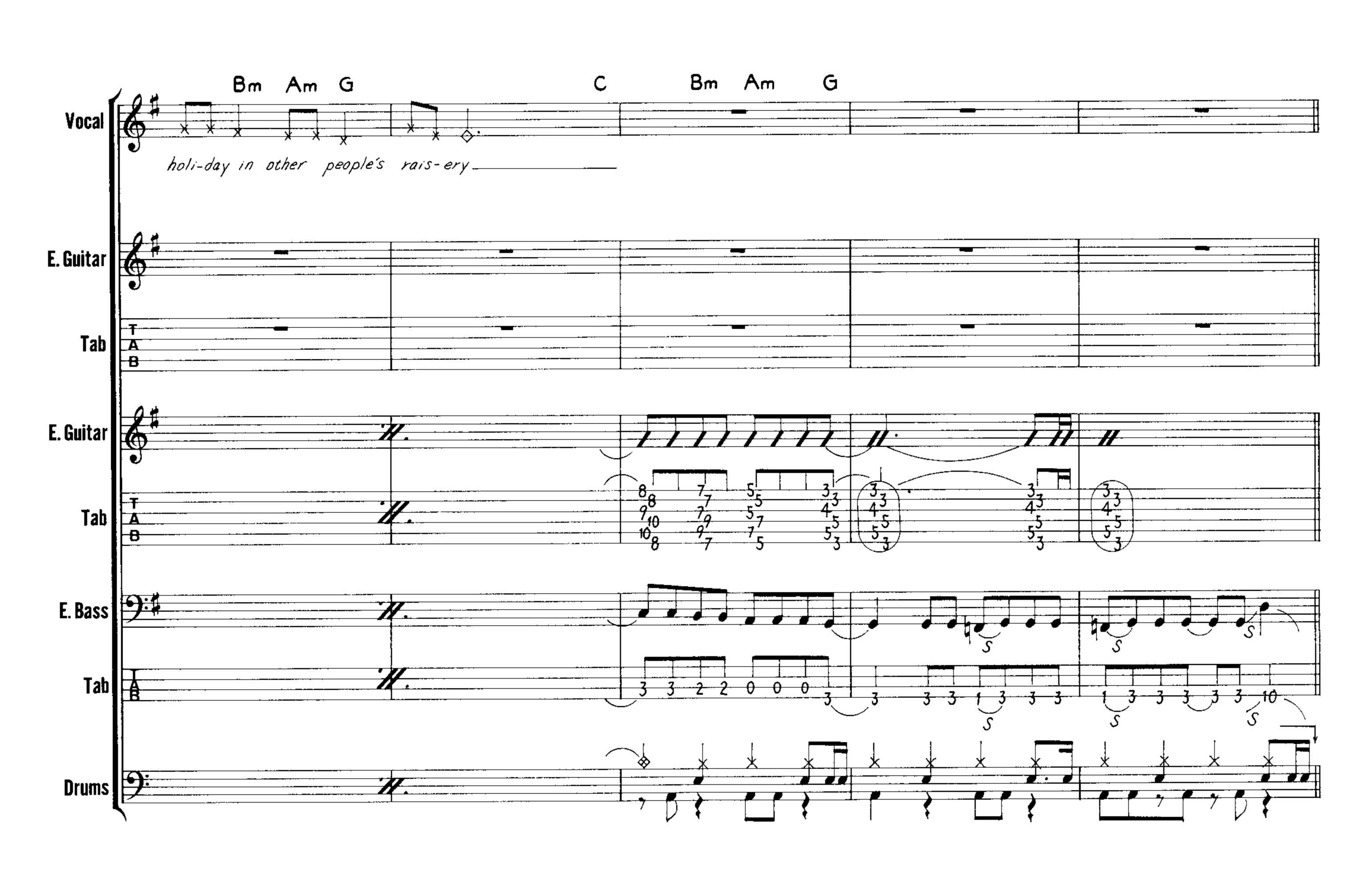


© 1979 by WARNER/CHAPPELL MUSIC LTD./ROTTEN MUSIC LTD.

All rights reserved

Used by permission









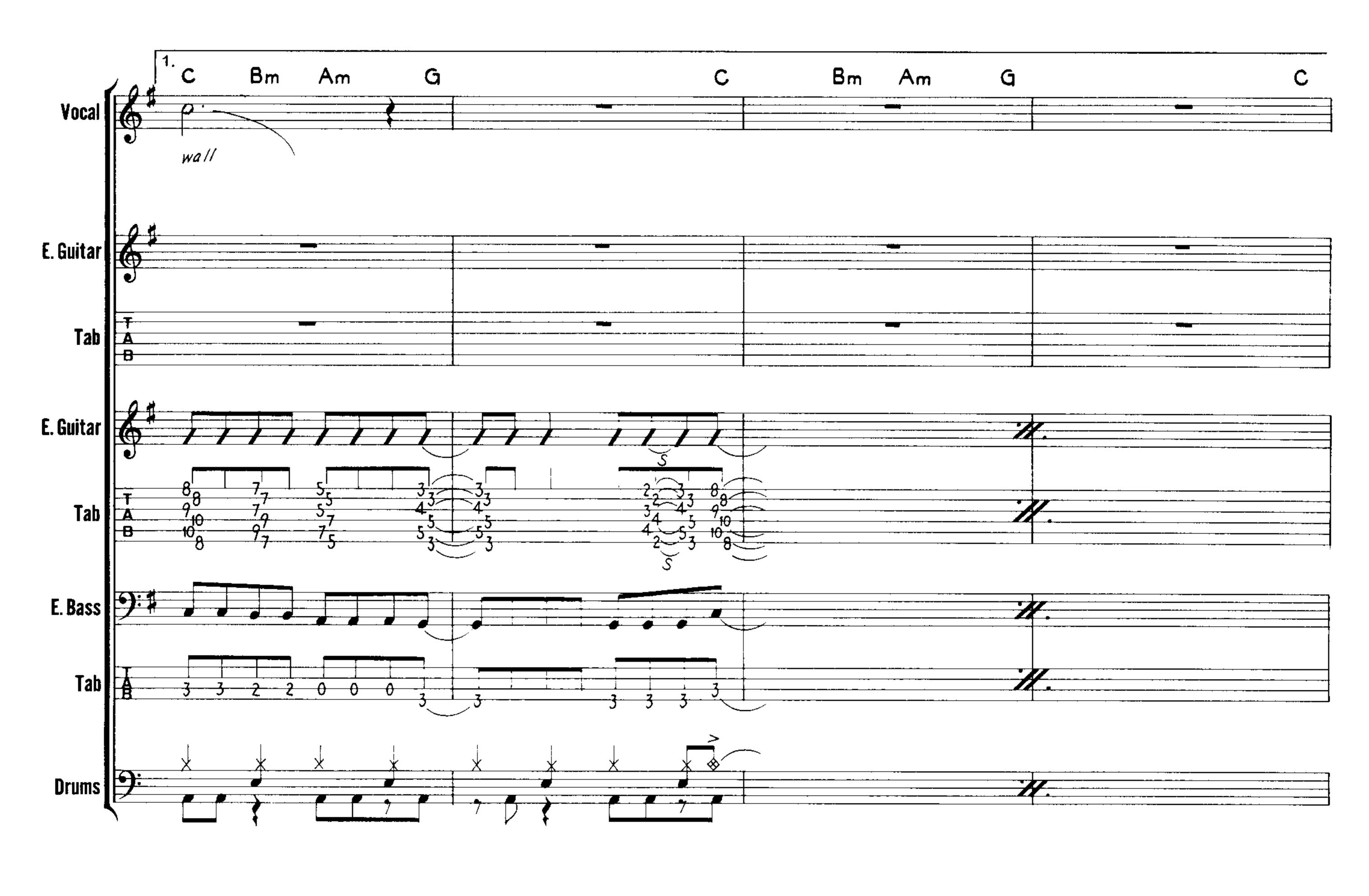






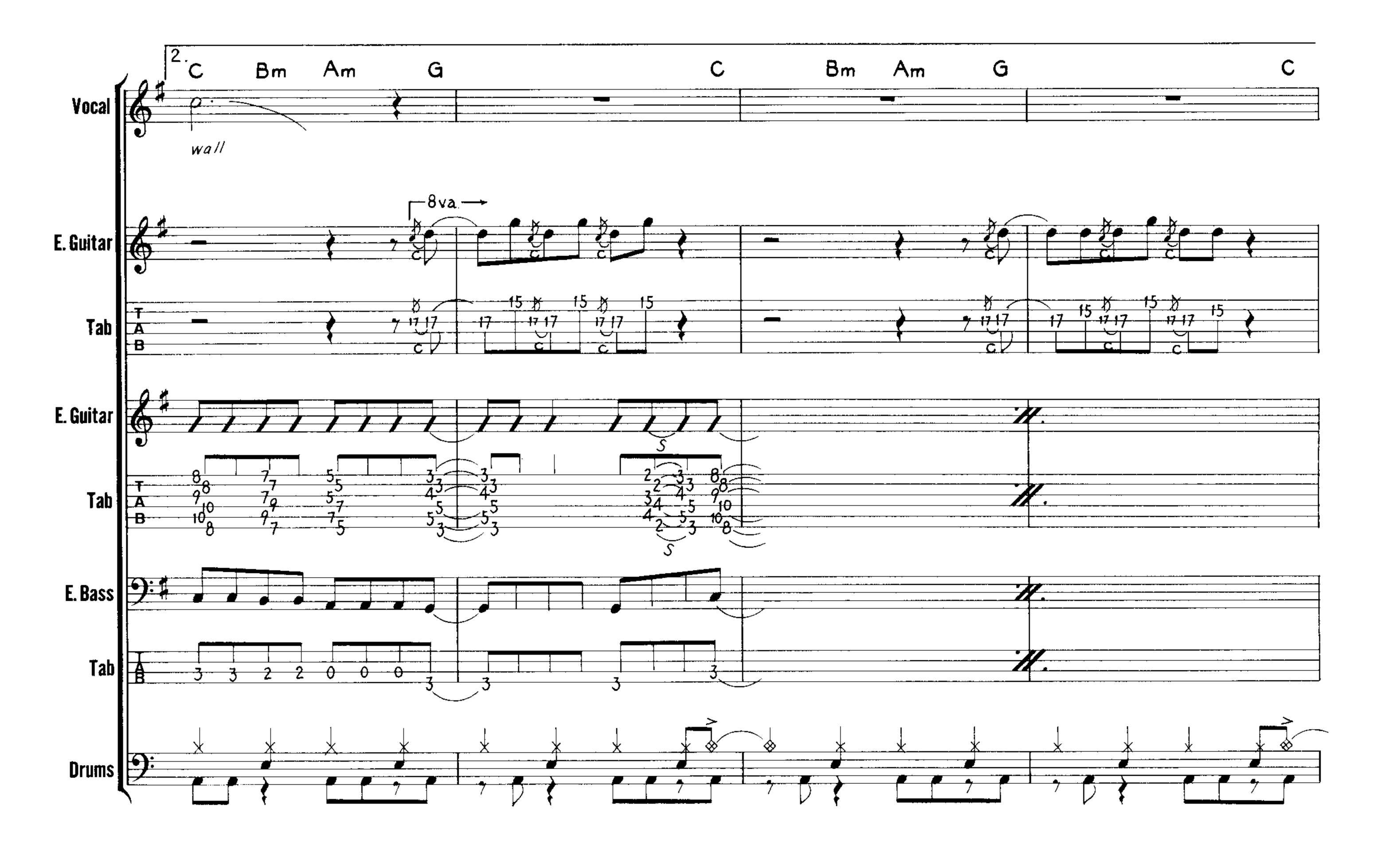










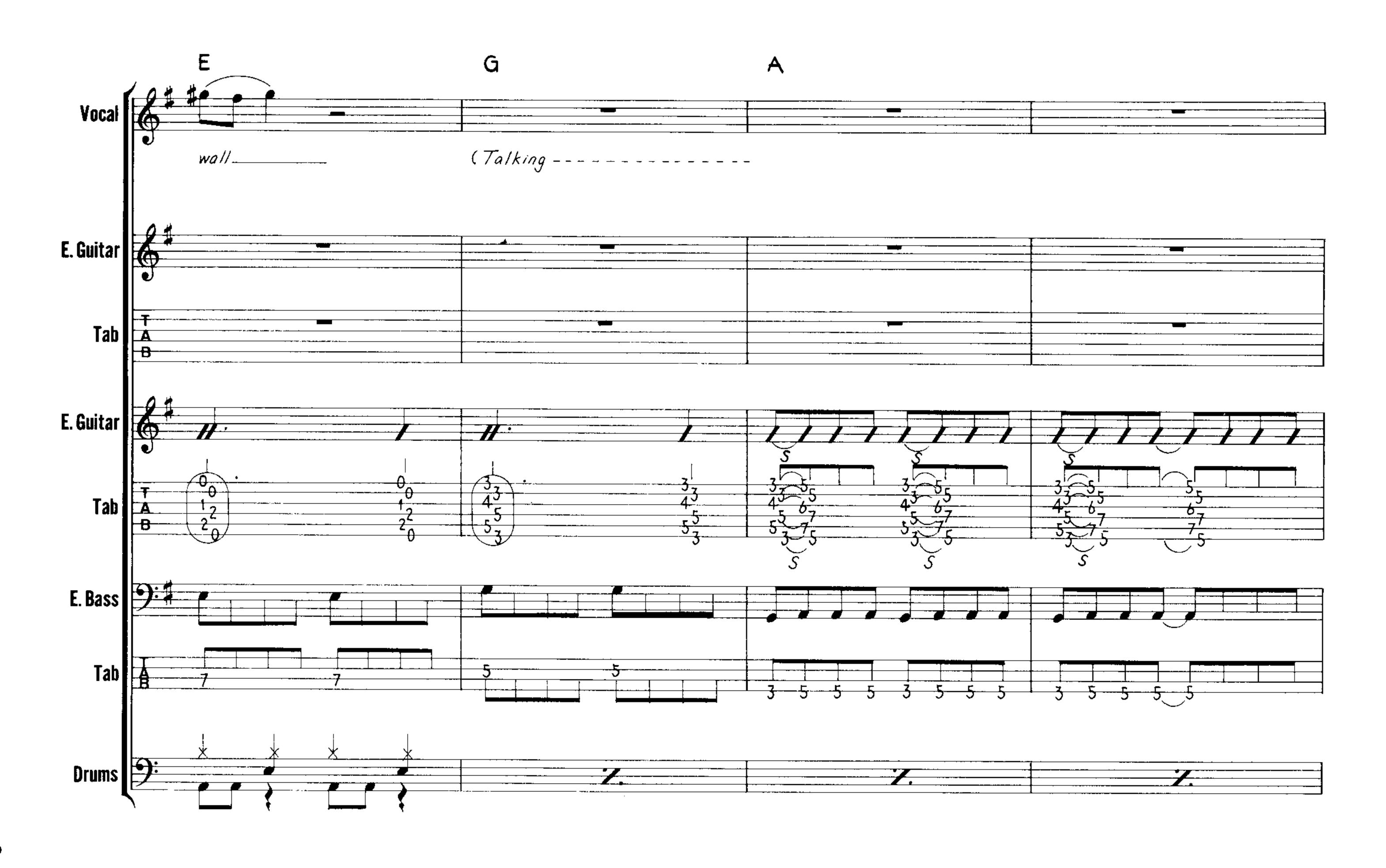


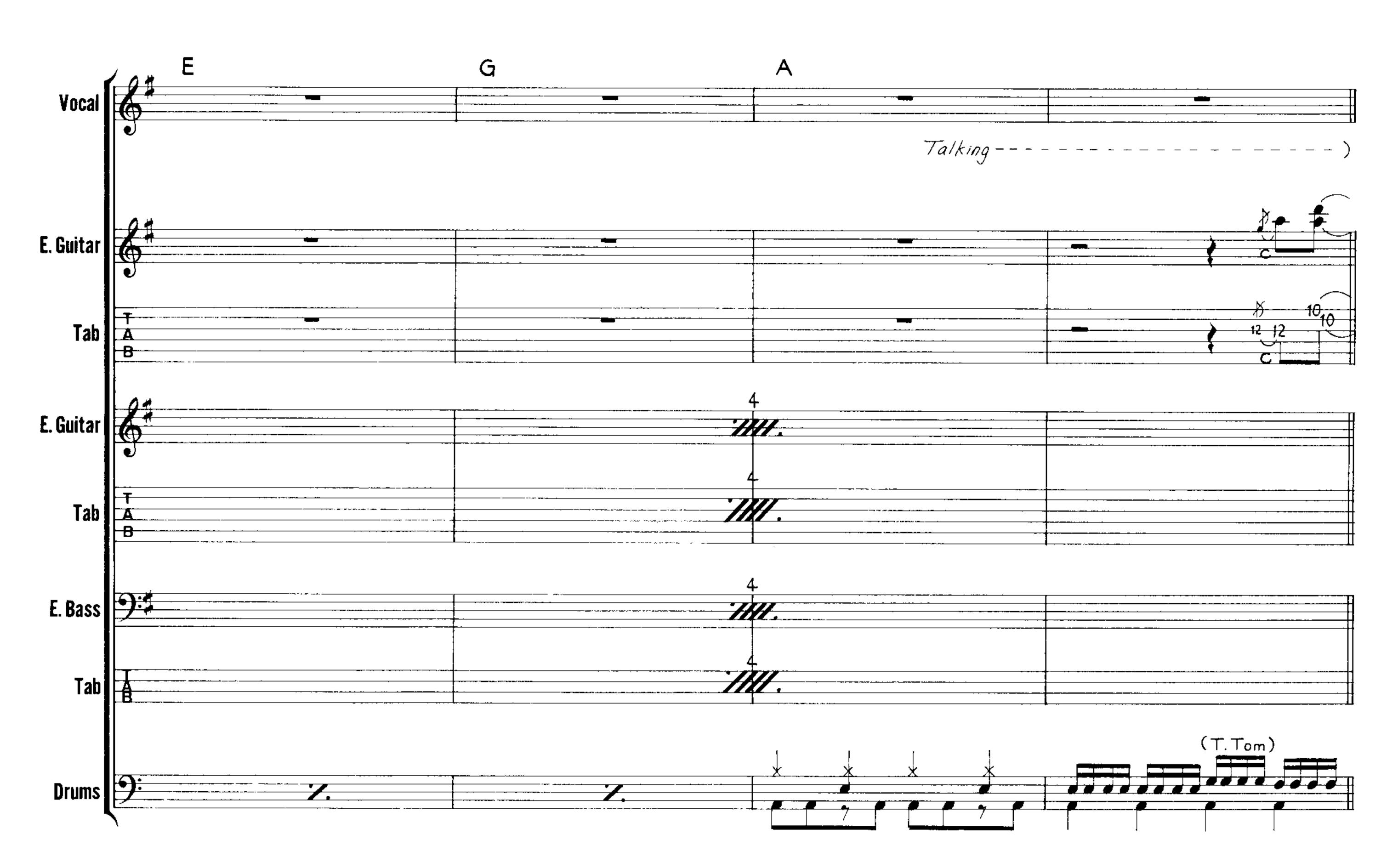












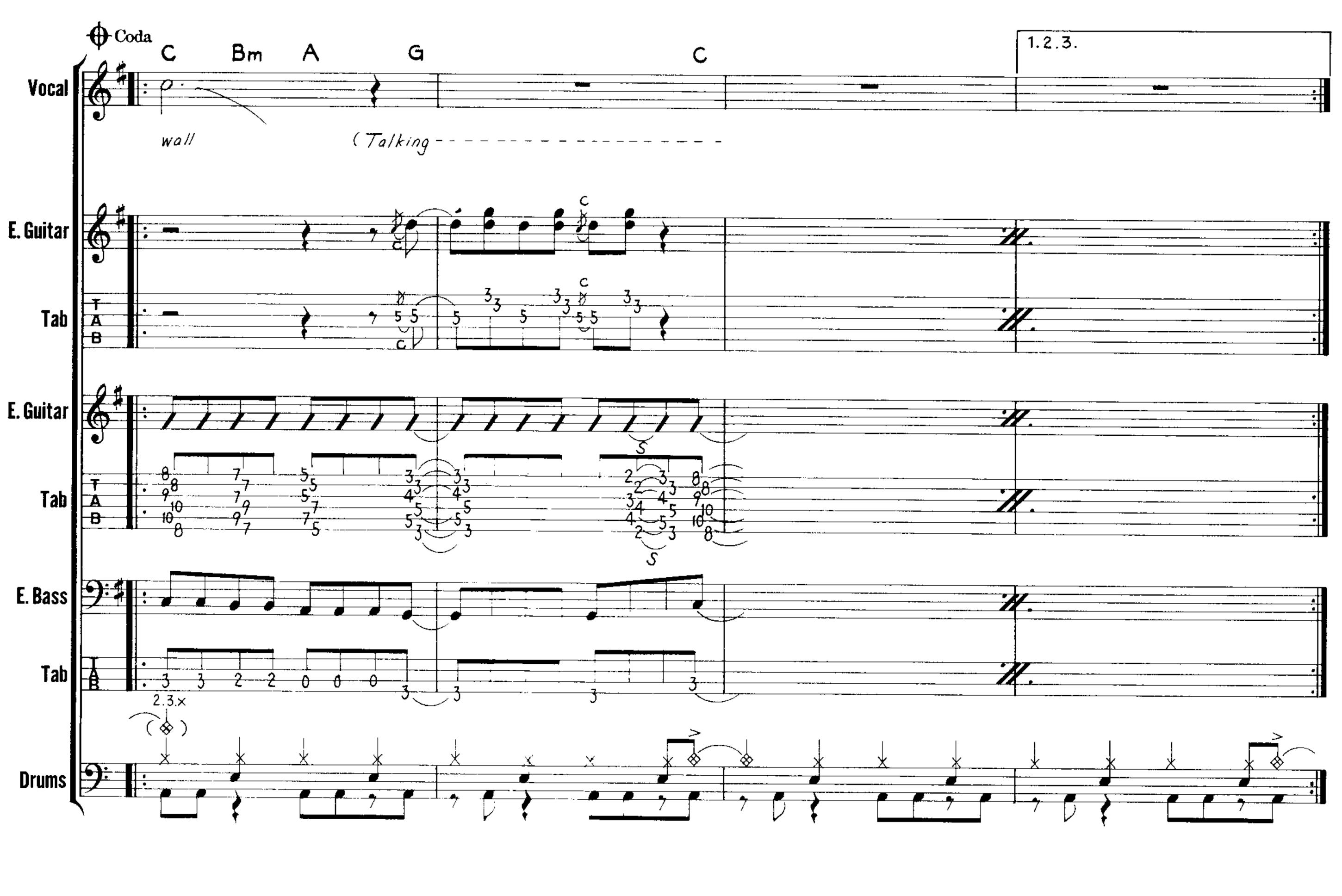




E. Guitar

Tab







BODIES

5前は売袋

Words & Music by Steve Jones, Paul Cook, John Rotten and Sid Vicious

不気味な雰囲気を持つイントロに導かれて始まる、ピストルズ うしい過激なナンバー。サビの部分ではバック・コーラスを生か したい。レコードでは深めのリヴァーブがかかっているが、機材 面に余裕があればデジタル・リヴァーブなどを使うと近い感じが 出せるだろう。イントロのギター2のフレーズはやや低めの音程 のチョーキングがそれらしいフィーリングを出している。あまり 気にする必要は無いが、チョーキングのタイミングもそれ程速く せずにルーズなムードを出したいところだ。ここでのギター1の

フレーズは6弦のみややミュート気味にしてあまり音が二づらないように気をつけよう。 国からのバッキング・パターンではコード・フォームのままのスライドがポイントだ。 左手の各指をスムーズに移動させるように心がけて弾くことが大切だ。 スライドさせるタイミングにも注意して上手くリズムに乗せて弾こう。 ベース・パートでのポイントもやはりスライドのタイミングだ。 ギター・パートを良く聴きながらタイミングを合わせるようなつもりでプレイしよう。



© 1977 by WARNER/CHAPPELL MUSIC LTD./ROTTEN MUSIC LTD.









NO FEELINGS

分ってたまるか

Words & Music by Steve Jones, Paul Cook, Glen Matlock and John Rotten

彼らのナンバーの中ではキャッチーな部類に入る、スピーディーなR&Rナンバー。ただし各メンバーともあまり力を抜いてしまうと軟弱な演奏になってしまうから思い切りパワーを込めて最後まで全力疾走のつもりでプレイすることが重要だ。ヴォーカルは歌詞がかなり詰まっているので字余りにならないように歌詞をしっかり覚えること。ギター・パートではイントロなどのリフ・パターンを完璧にリズムに乗せて弾くことが一番のポイントだ。16分音符のピッキングがテンポから遅れないように注意しながら強ハアタックをつけて弾こう。ギター・ソロ回はR&Rスタイルの典

型的なリード・フレーズで構成されている。それぞれのコード・フォームの応用でつくられたフレーズなので覚えやすいと思うが、右手で複数の弦をピッキングしなければならないのでストロークを強めにして全部の弦を同時にヒットできるように注意しよう。ギター1・2はそれぞれかなり違った感じのトーンにしておいた方が効果的だ。ベース、ドラムスはとにかくこの曲のテンポに乗り遅れないことが一番の課題だ。どちらもお互いに相手をリードするようなつもりでプレイすると良いだろう。



































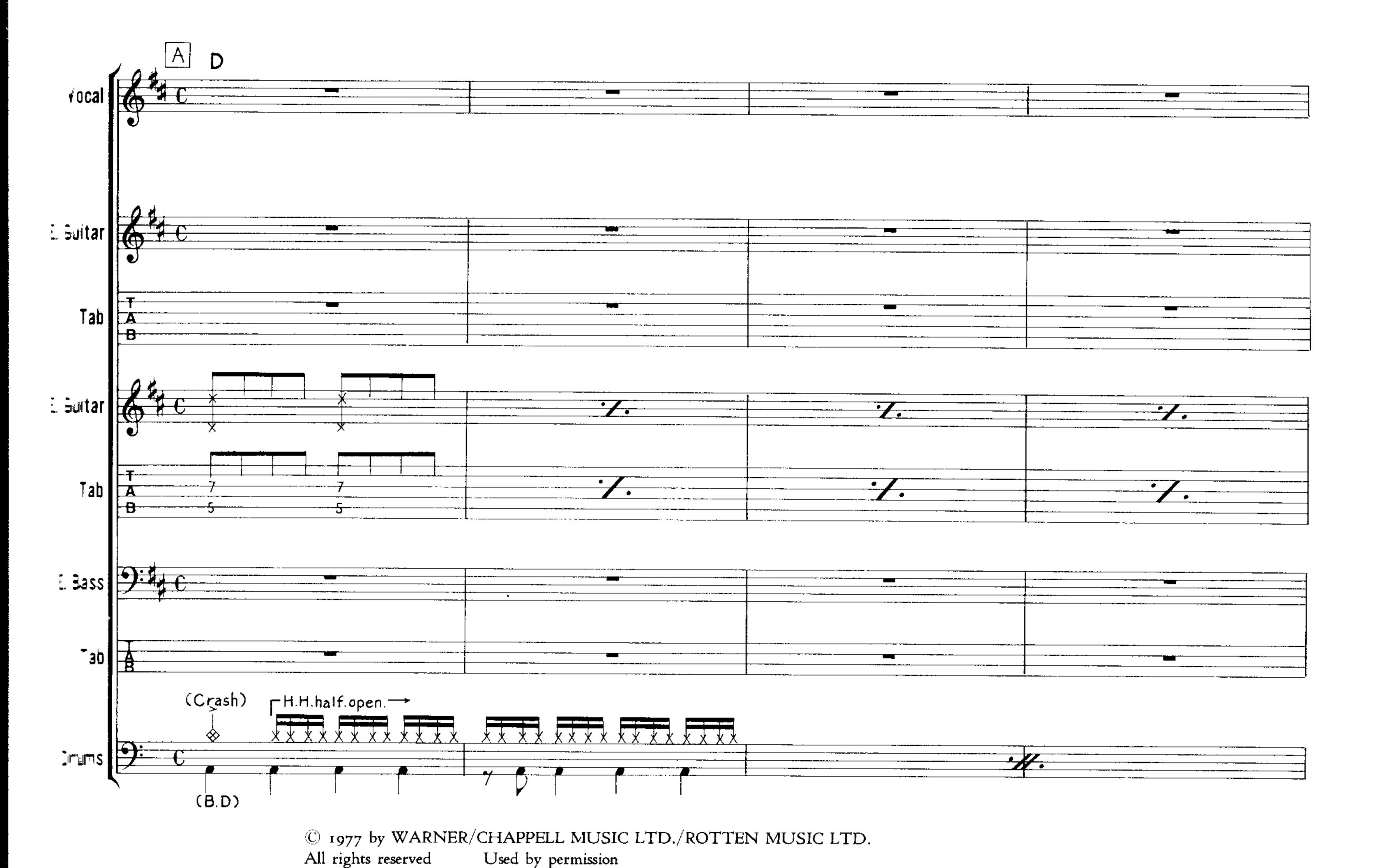






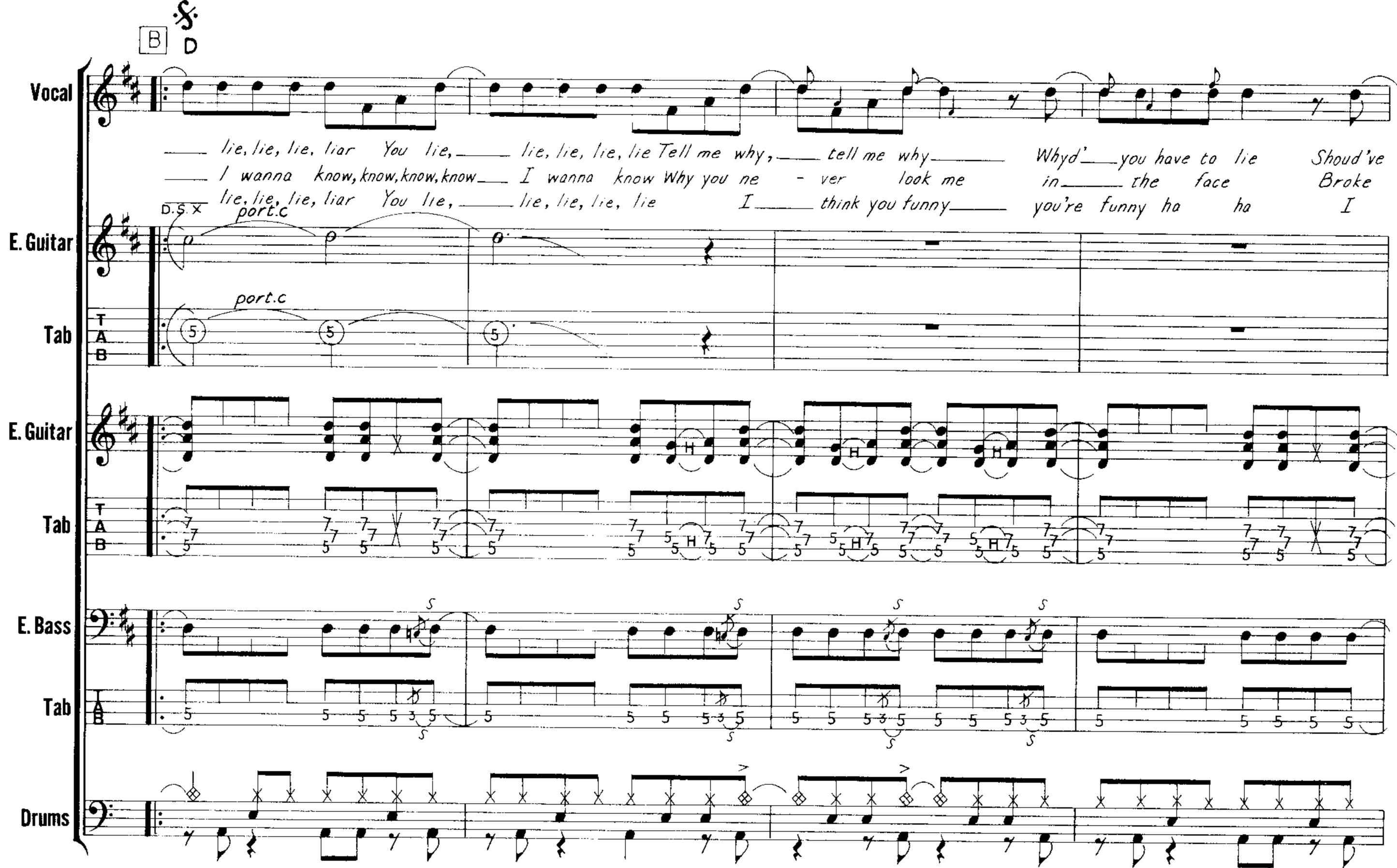
Words & Music by Steve Jones, Paul Cook, Glen Matlock and John Rotten

さむことが特徴だ。人差指をねかせて4・5弦の5フレットをまとめて押さえて2本の弦を同時にピッキングし、4弦7フレットを薬指でハンマリング。このとき人差指の力を抜いてしまわないように注意して弾こう。ギター・ソロ回はハーモナイズド・チョーキングの連発だ。レコードではあまり音程の正確さにはこだわらずに弾いているが、ある程度の注意はやはり必要だ。ベースはひとつひとつの音のツブを揃えてフラットなノリを出すこと。ドラムスはハイハットの8分打ちと4分打ちの区別に気をつけて叩くことがポイントだ。















Drums 9



(H.H.open)



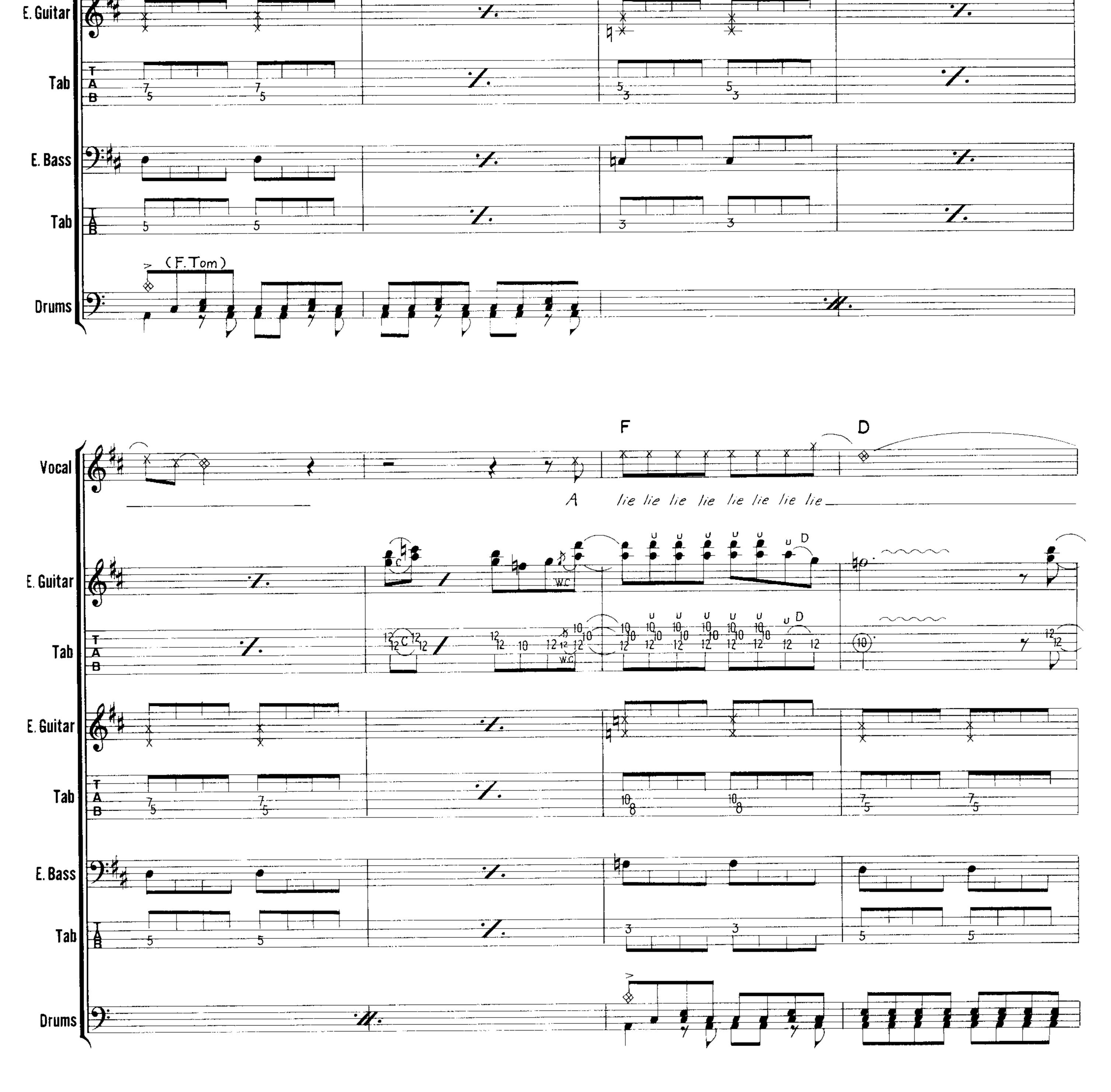








Youre a liar



You're a

Tab

liar _____



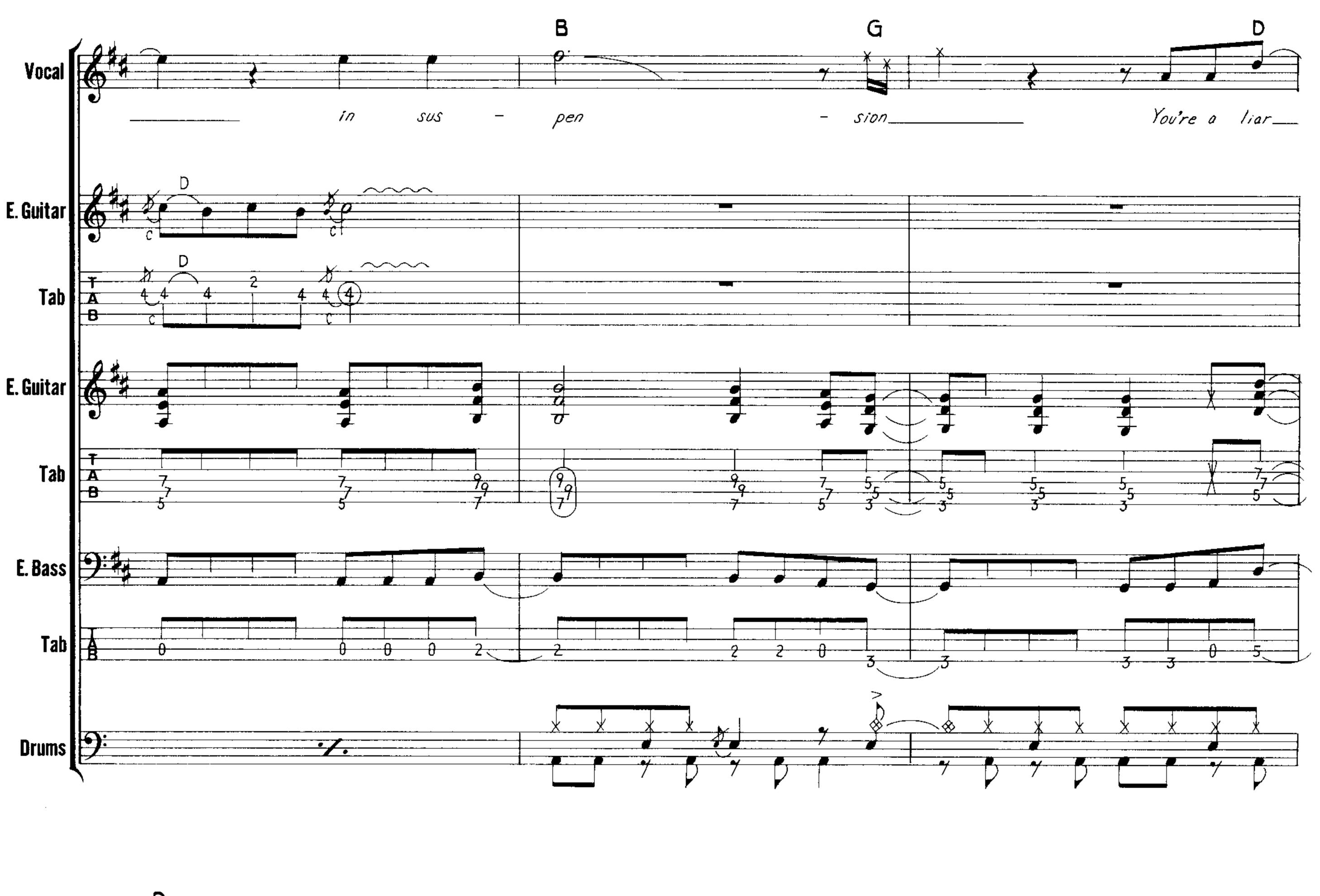
















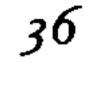
ゴッド・セイヴ・ザ・クイーン

Words & Music by Steve Jones, Paul Cook, Glen Matlock and John Rotten

シンプルな編成でややタイトさを感じさせたいR&Rタイプの曲 5. ヴォーカル・パートはそれ程難しくは無いと思う。エンディ ブのくり返しのメロディーはストレートに歌うようにして全体 エメリハリをつけよう。ギターはバッキング・パートのみもう 1 モニギターをダビングで重ねてあるようだ。ギターが 2 人のバン で演奏する場合はユニゾンで弾くと良いだろう。イントロ 5 小 町のからはこの曲のメインとなるリフ・パターンだ。 Dコードの エミのトップ・ノートの動きを目立たせることがここでのポイン



© 1977 by WARNER/CHAPPELL MUSIC LTD./ROTTEN MUSIC LTD. All rights reserved Used by permission

















41

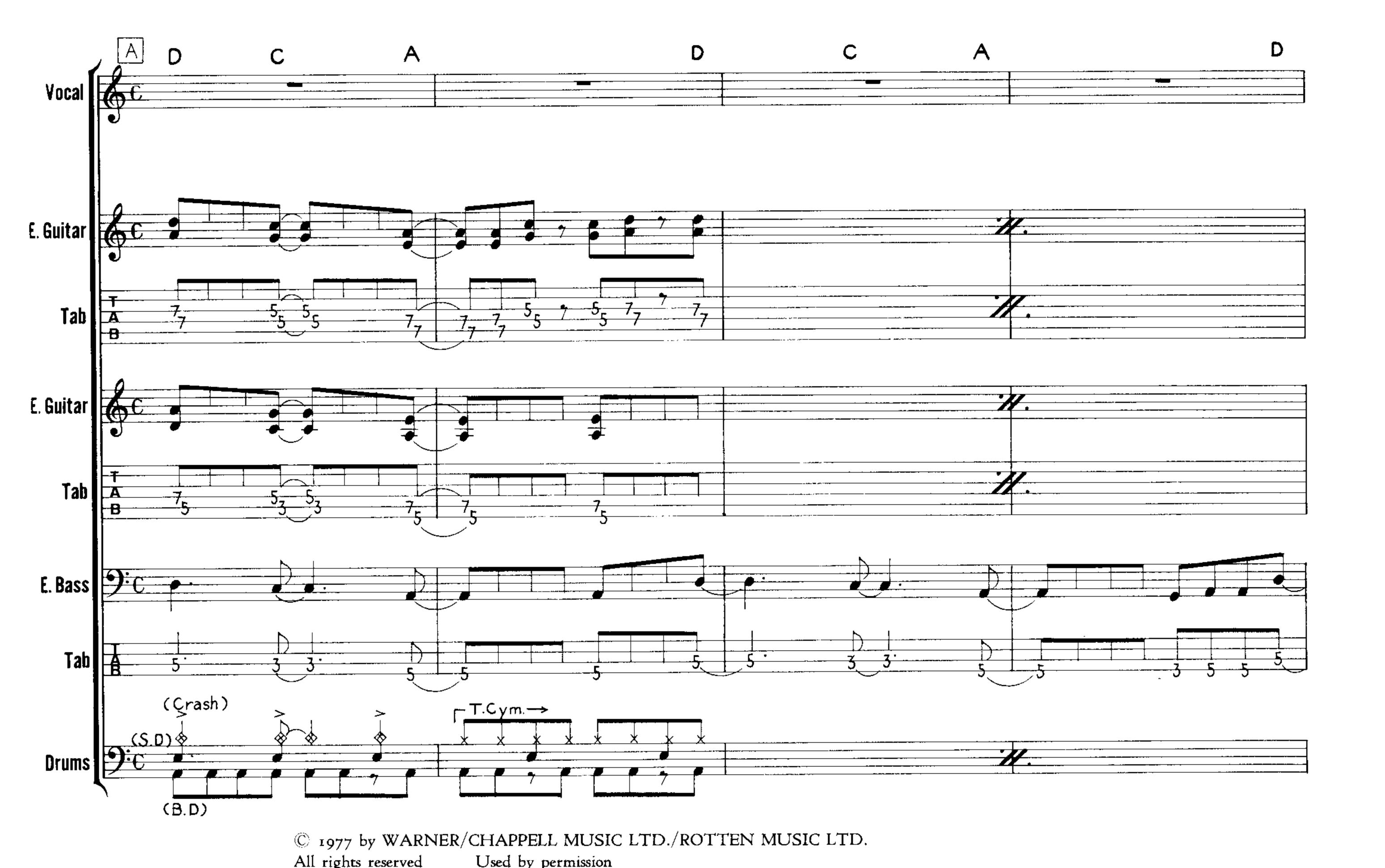
PROBLEMS

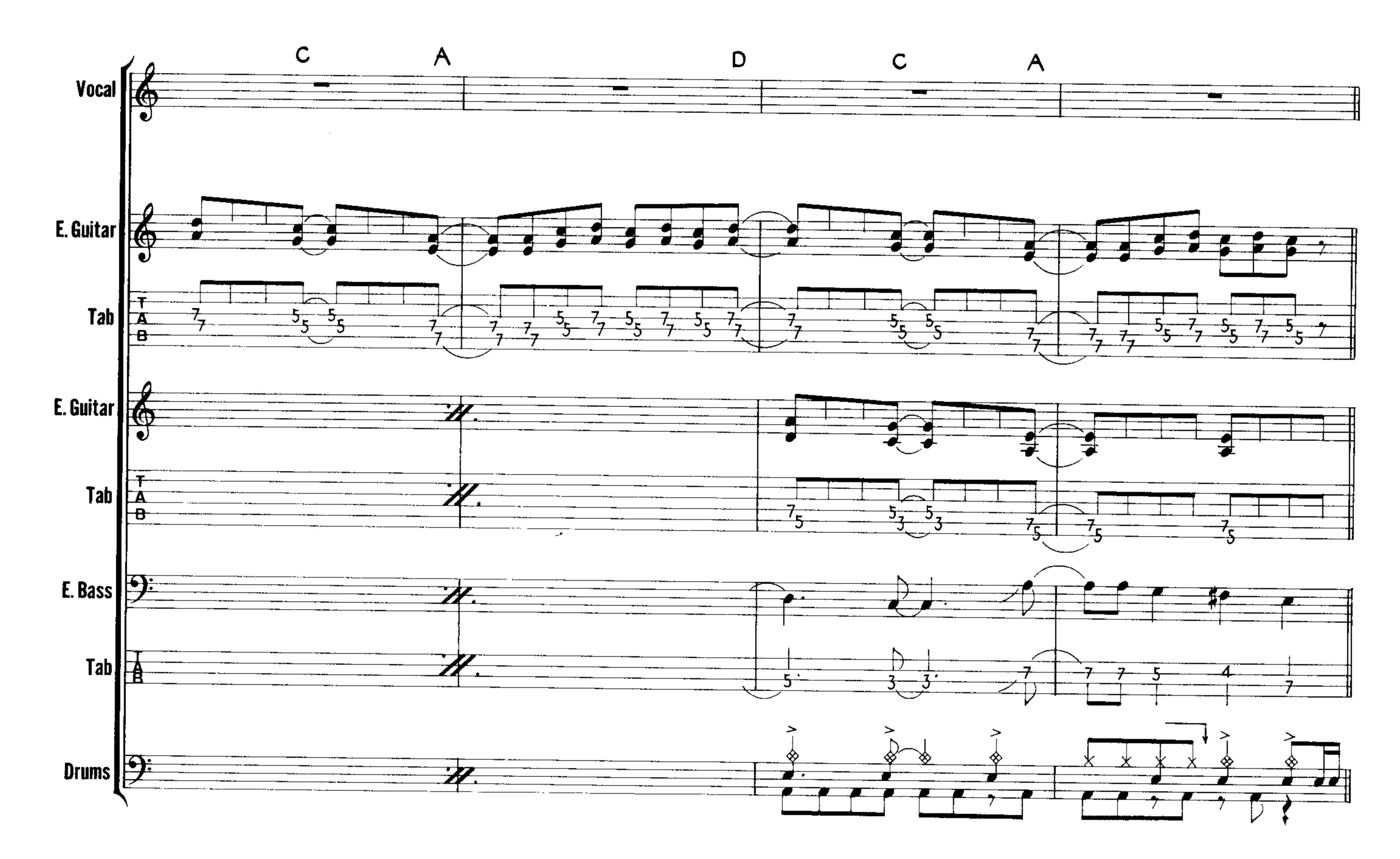
怒りの目

Words & Music by Steve Jones, Paul Cook, Glen Matlock and John Rotten

またおかけるようにくり返させるギターのリフが呪術めいた効果を持っているエキセントリックなナンバーだ。ヴォーカルもあまりメロディーを前面に出さずにアジテーション的な雰囲気を強調したものだと言えるだろう。ギターは2台重ねてあり、それぞに違うフレーズを弾いている。ギター1はダブル・トーンを中心とするパターン・プレイがほとんどだ。2小節でひとつのパターとなるもので、1小節めはほぼ同じフレージングのくり返しにいるが2小節めの方はかなり自由にくずして弾いている。こまり譜面に書かれたフレーズにはこだわらなくても良いだろう。

ギター・ソロもパターン化されているがピッキングする弦なども特に指定どうりで無くても雰囲気がつかめていれば良いハズだ。ギター2の方はシンプルな5度コード・プレイに徹している。ベースは全体を通してアンティシペーションとシンコペーションが多用されているので、早くノリをつかんでしまうことが大切だ。ドラムスを良く聴きながら正確なタイミングでプレイするように心がけよう。ドラムスはバスドラのキック主体にフレーズを組み立てていくようなつもりで全体をまとめること。





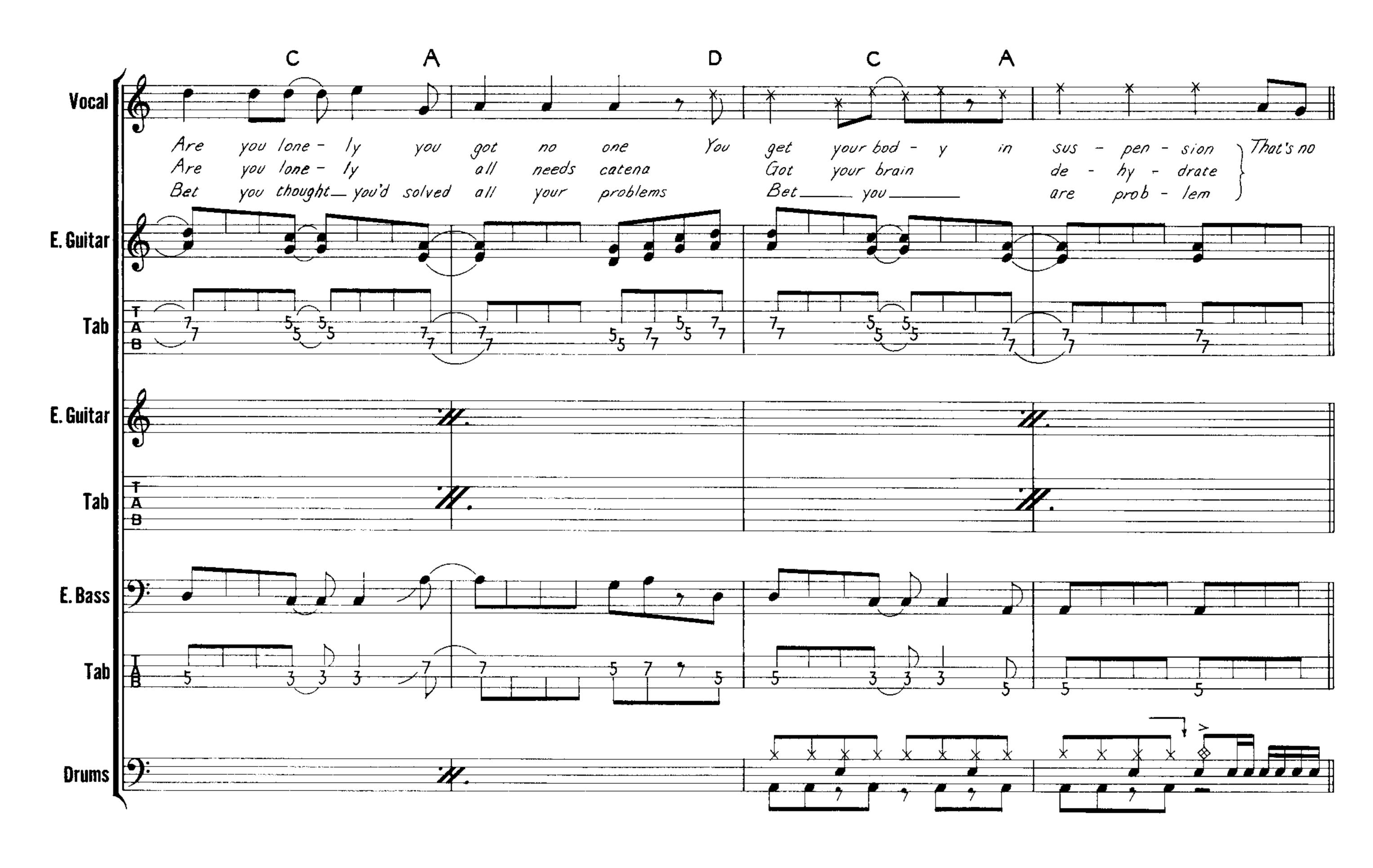


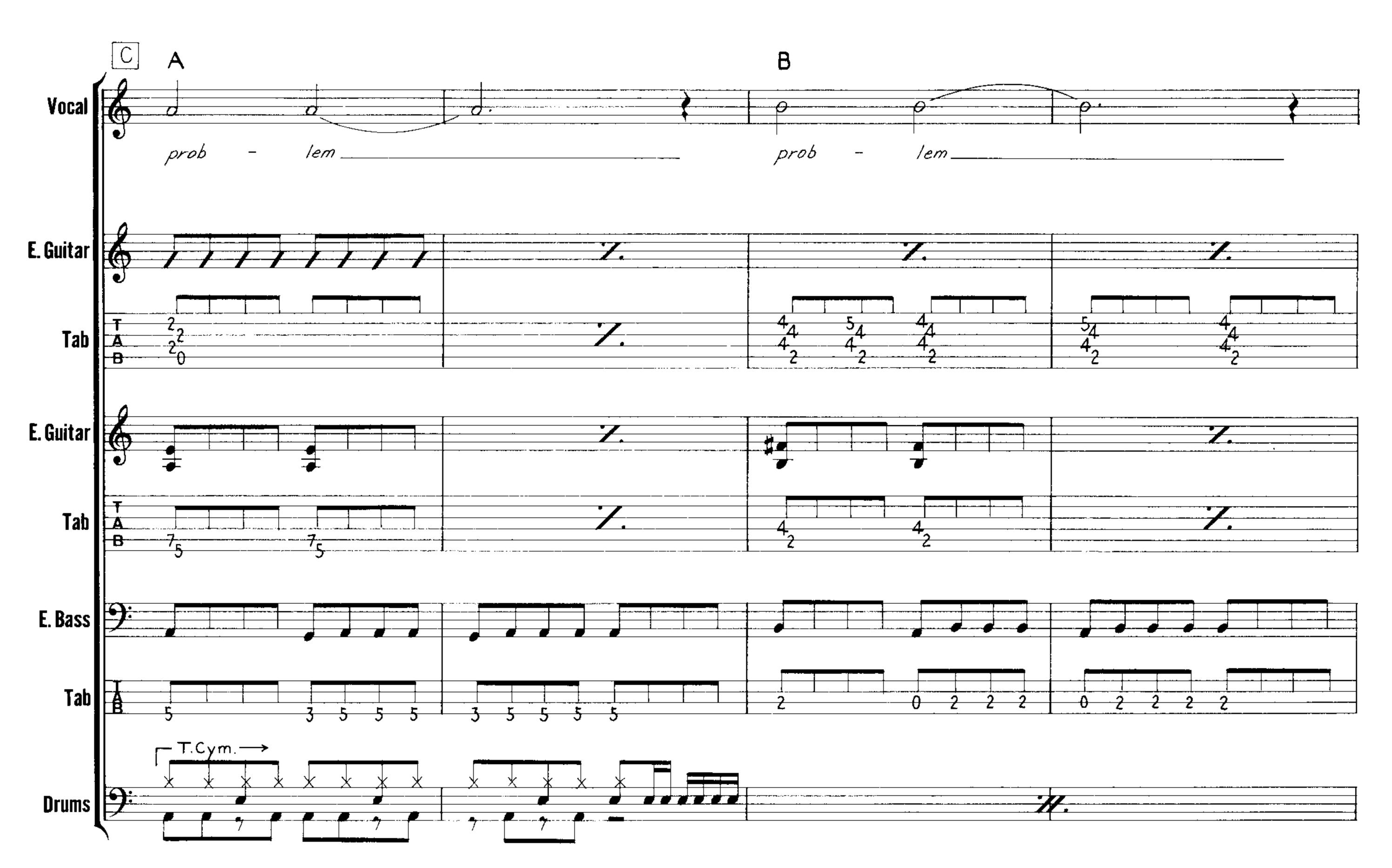










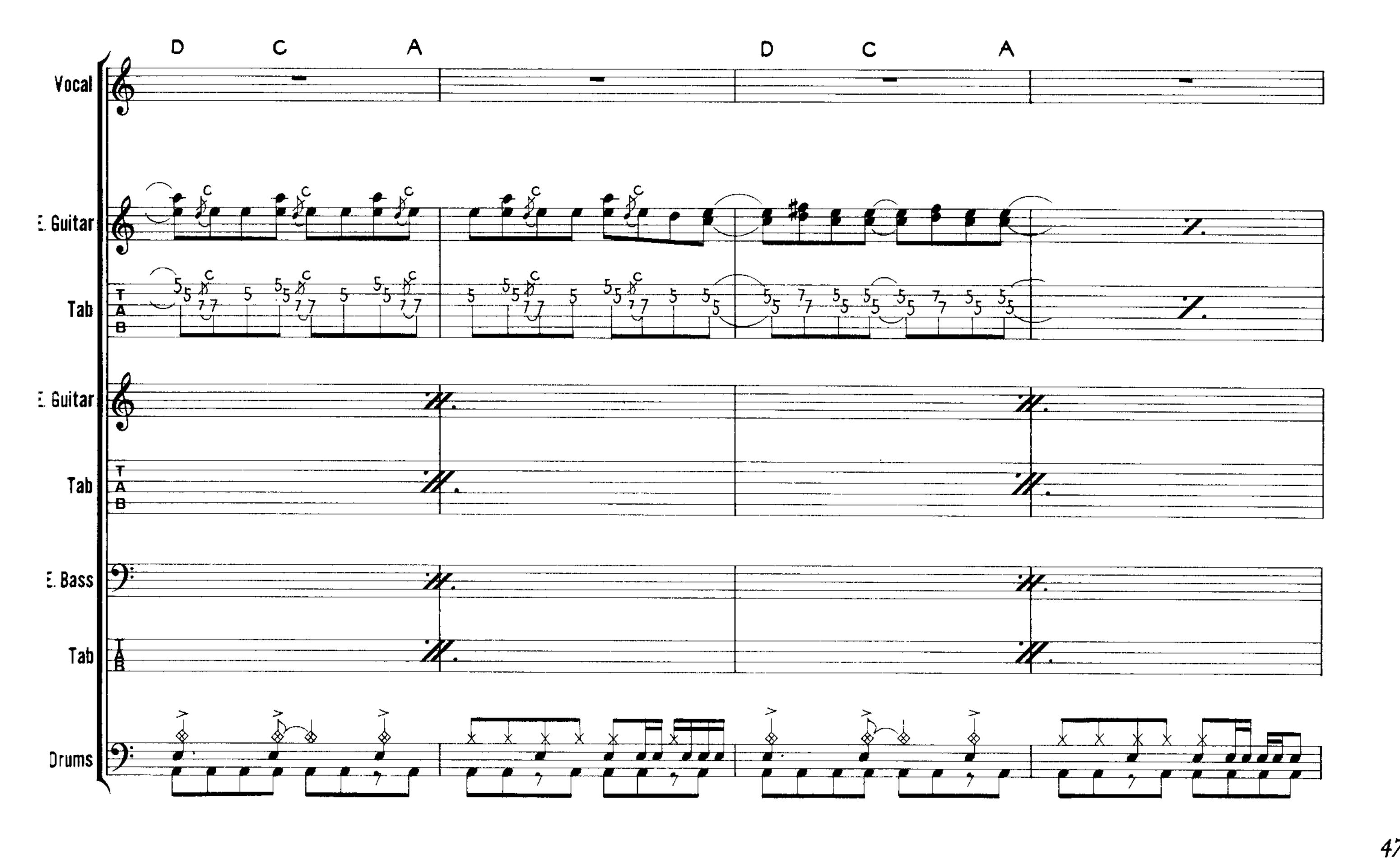


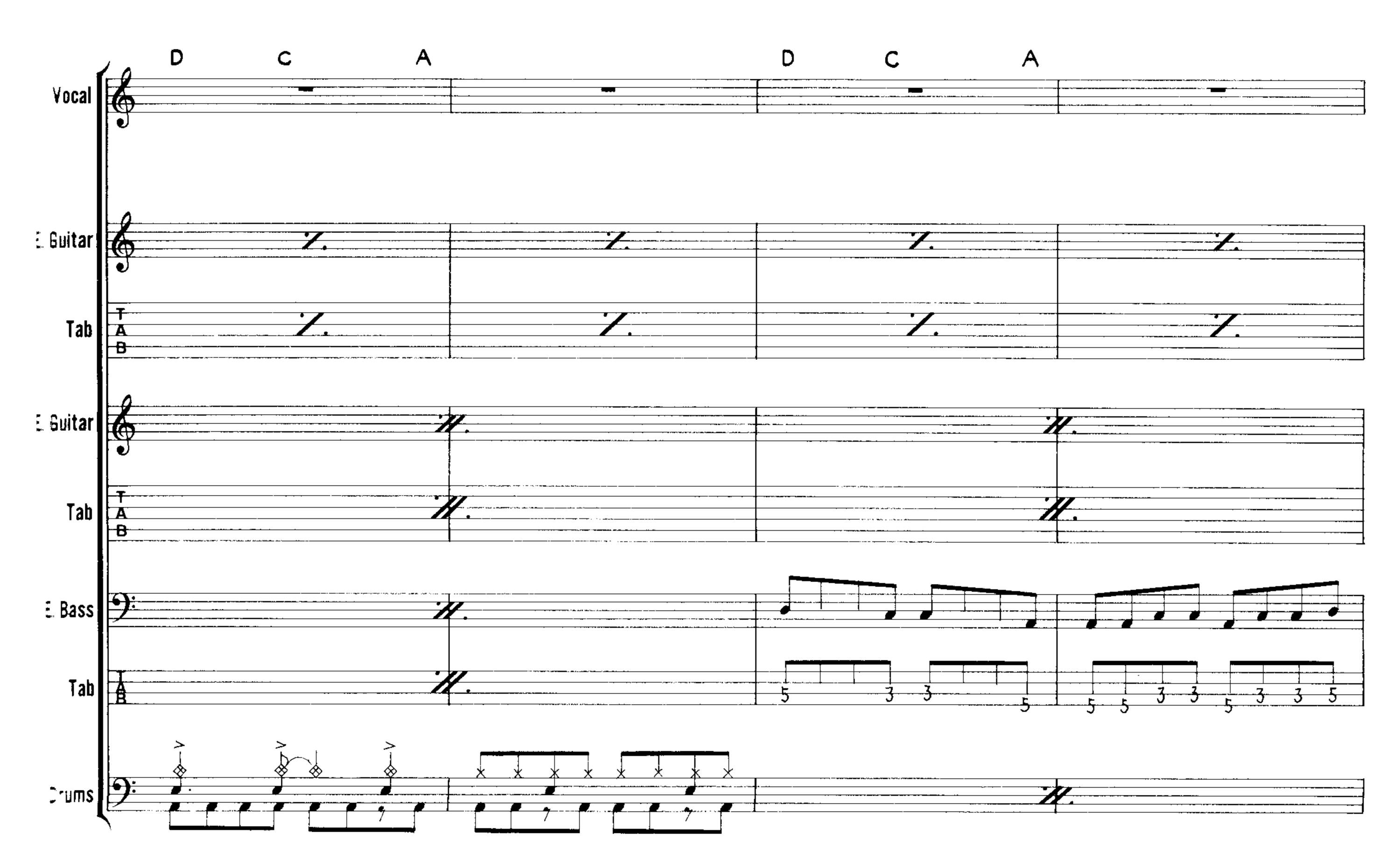








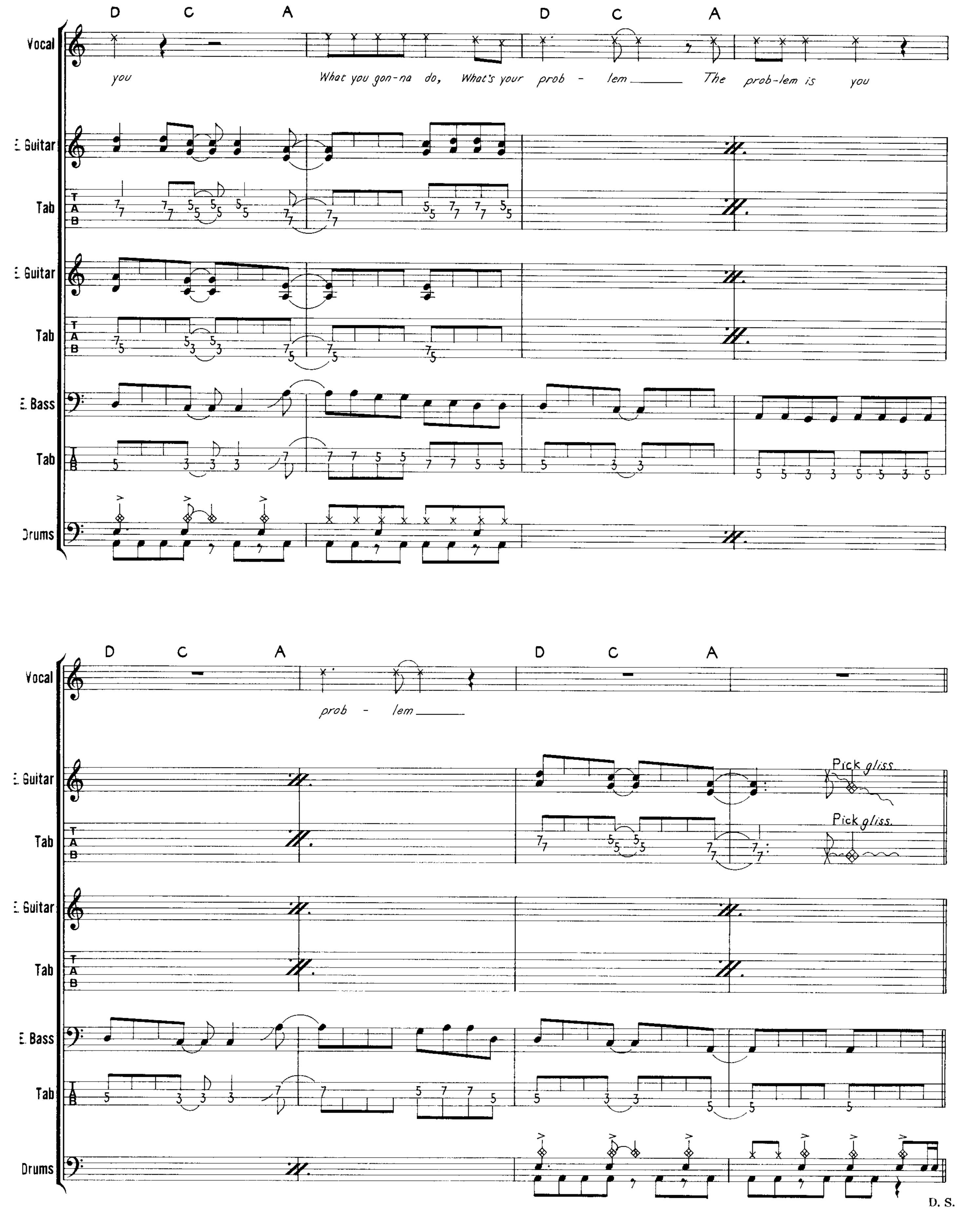






















G D

you

prob - lem ____ Oh what you gon-na do

Vocal

E. Guitar

Tab

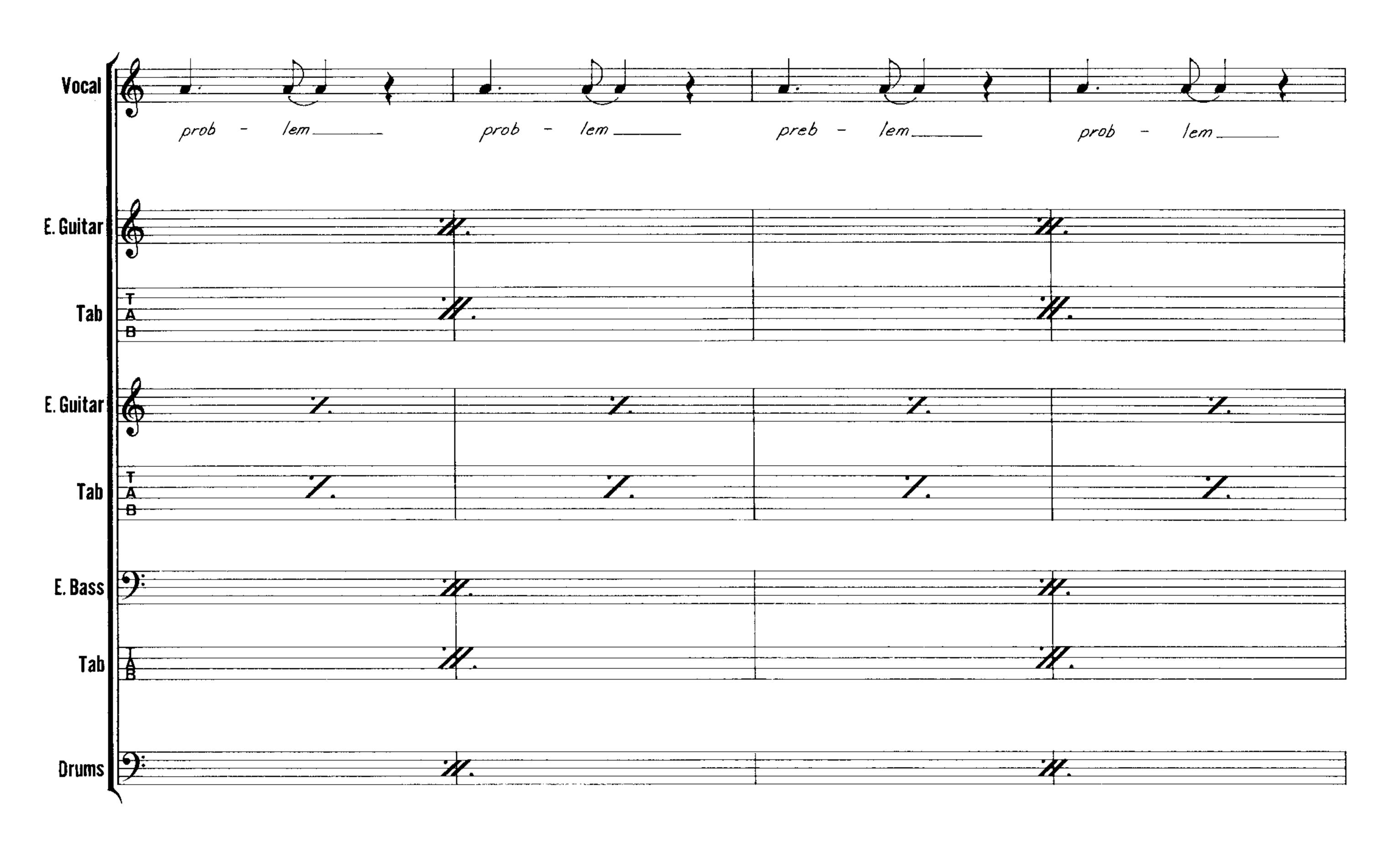
You got a prob - lem the prob-lem is













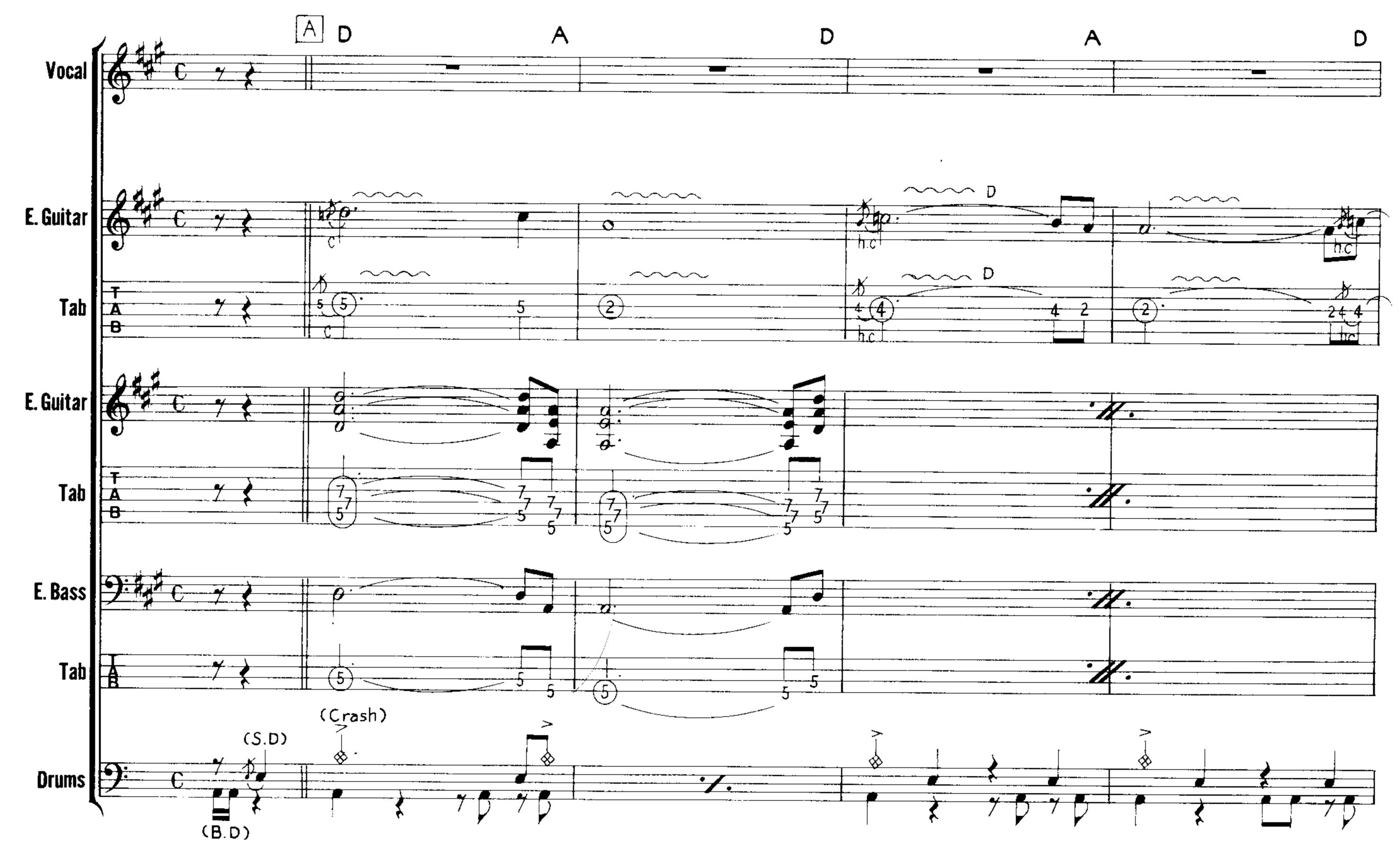
SEVENTEIN

セヴンティーン

Words & Music by Steve Jones, Paul Cook, Glen Matlock and John Rotten

軽快なノリを特徴とするアップ・テンポのナンバーだ。と言っても一般的に使われる「軽快さ」とは意味が少し違ってしまうのだが。ヴォーカル・パートでは、サビの部分がバック・コーラスとのユニゾンになっている点がポイント。これが無いと全体がダラダラしてしまってメリハリがつかなくなる可能性があるので注意したい。ギター1では、イントロのフレーズでのヴィブラートをできるだけ大きくかけること。フレーズ自体それ程難しいものでは無いのでヴィブラートによって一種独特のムードをつくり出

すことがポイントだ。かなり極端なイコライジングがされているので、トーンのセッティングにも注意して似た感じの音をつくりだそう。ギター2はコード・ストローク中心だが、低音弦中心のピッキングで音に厚みをつけることがこの曲でのポイントになる。回の1~2小節めはブリッジ・ミュートを効かせて他の部分とのコントラストをはっきりつけることも大切だ。ベースはシンプルなパターン・プレイに徹することが重要。ドラムスは16分音符のフィル・インが遅れないように注意してプレイしよう。



© 1977 by WARNER/CHAPPELL MUSIC LTD./ROTTEN MUSIC LTD.
All rights reserved Used by permission

Rights for Japan administered by WARNER/CHAPPELL MUSIC, JAPAN K.K., c/o NICHION, INC.











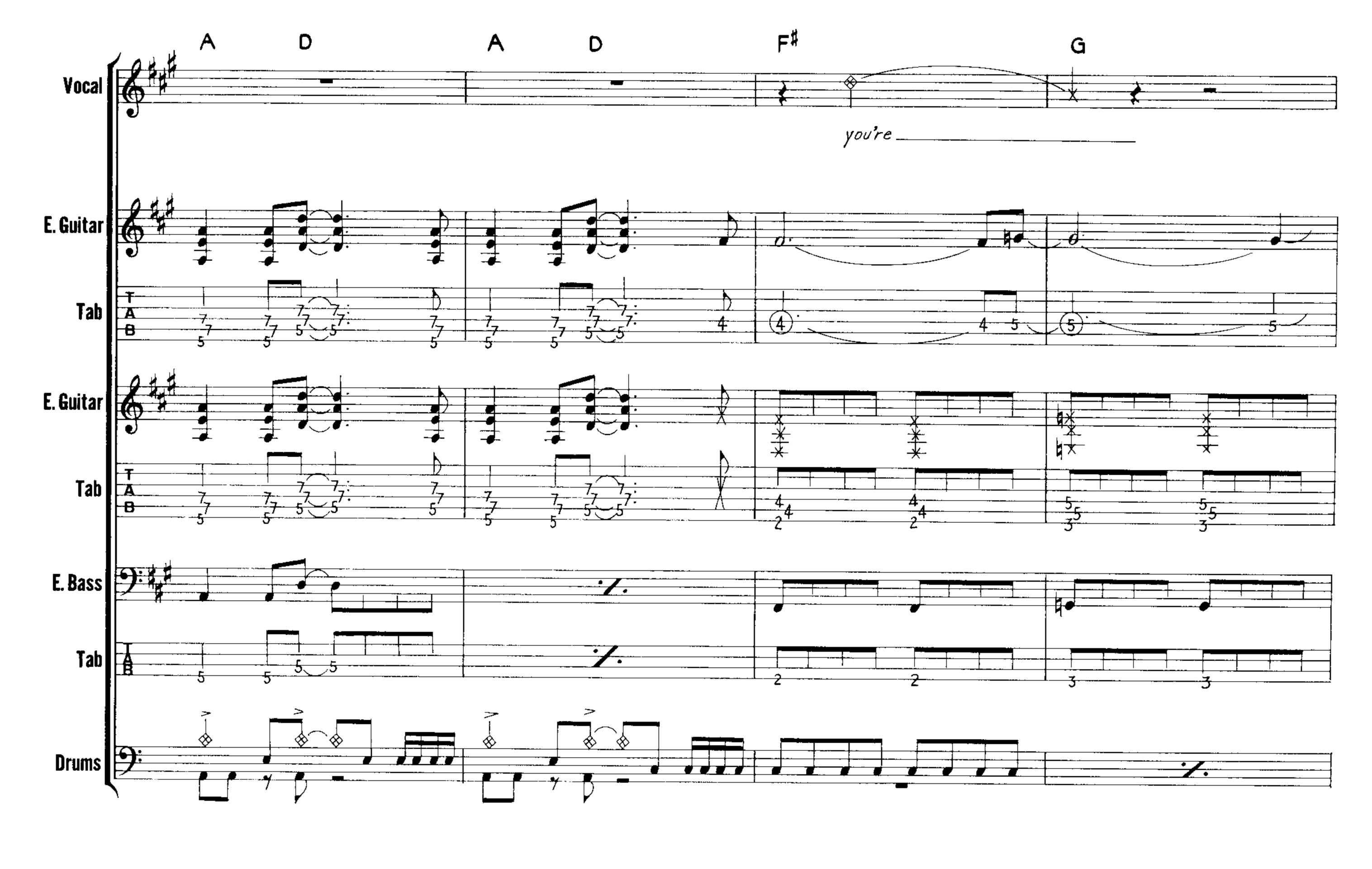
I'm a



I'm a laz - y sod_____

I'm a laz - y sod _____

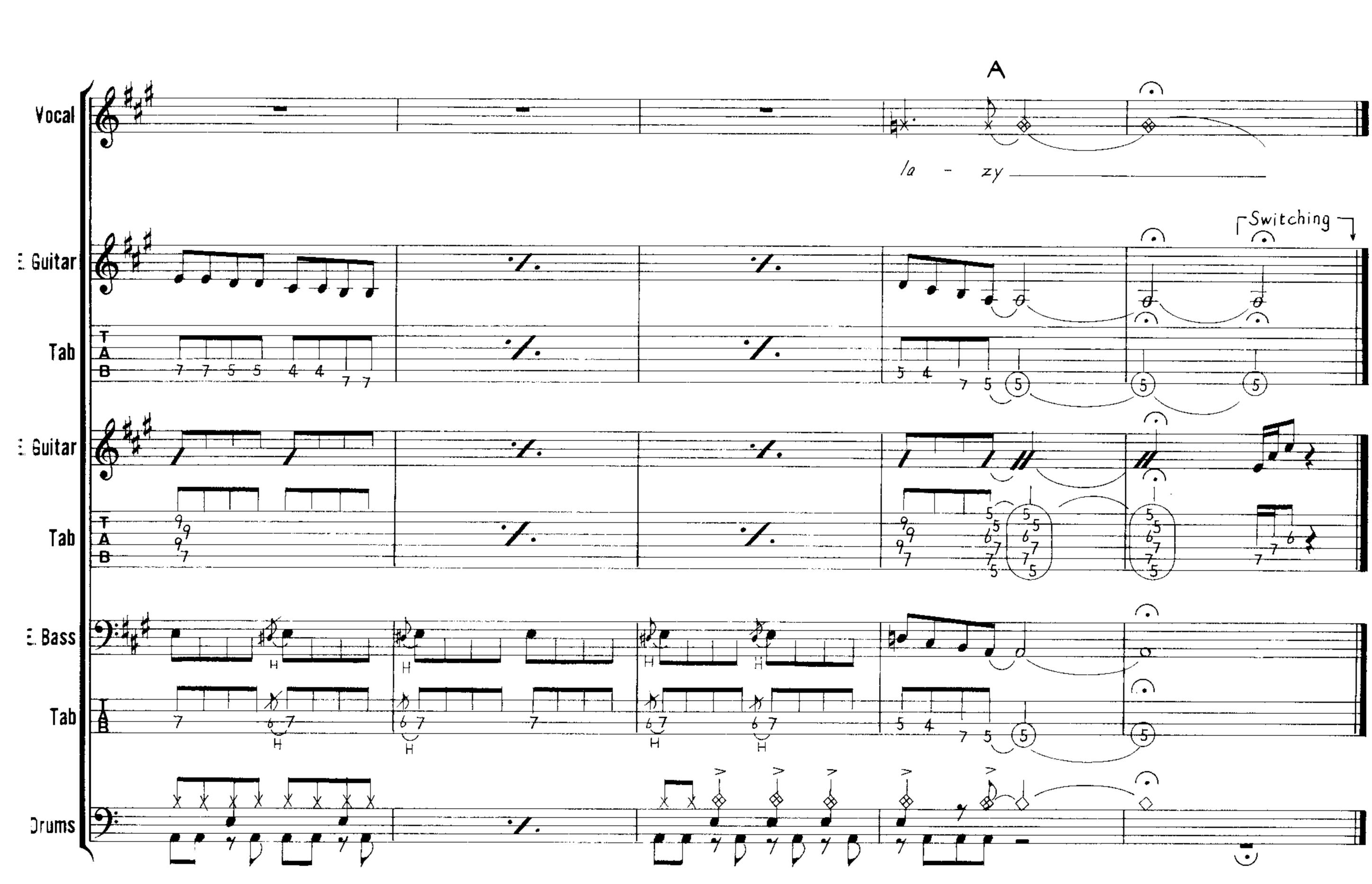
E. Guitar











ANARCHY IN THE U.K.

Words & Music by Steve Jones · Glen Matlock · Paul Cook · Johnny Rotten

© 1977 GLITTERBEST LTD. & WARNER BROS. MUSIC LTD.
All Rights Reserved
The rights for Japan administered by WARNER BROS. MUSIC (JAPAN) INC.

E.G-Bのコード・ストロークは、低音弦を中心に。高音弦は適当にカットするように。凹で転調しBで元のKeyに戻るので、歌い出しの音程に注意して下さい。















SUB MISSION

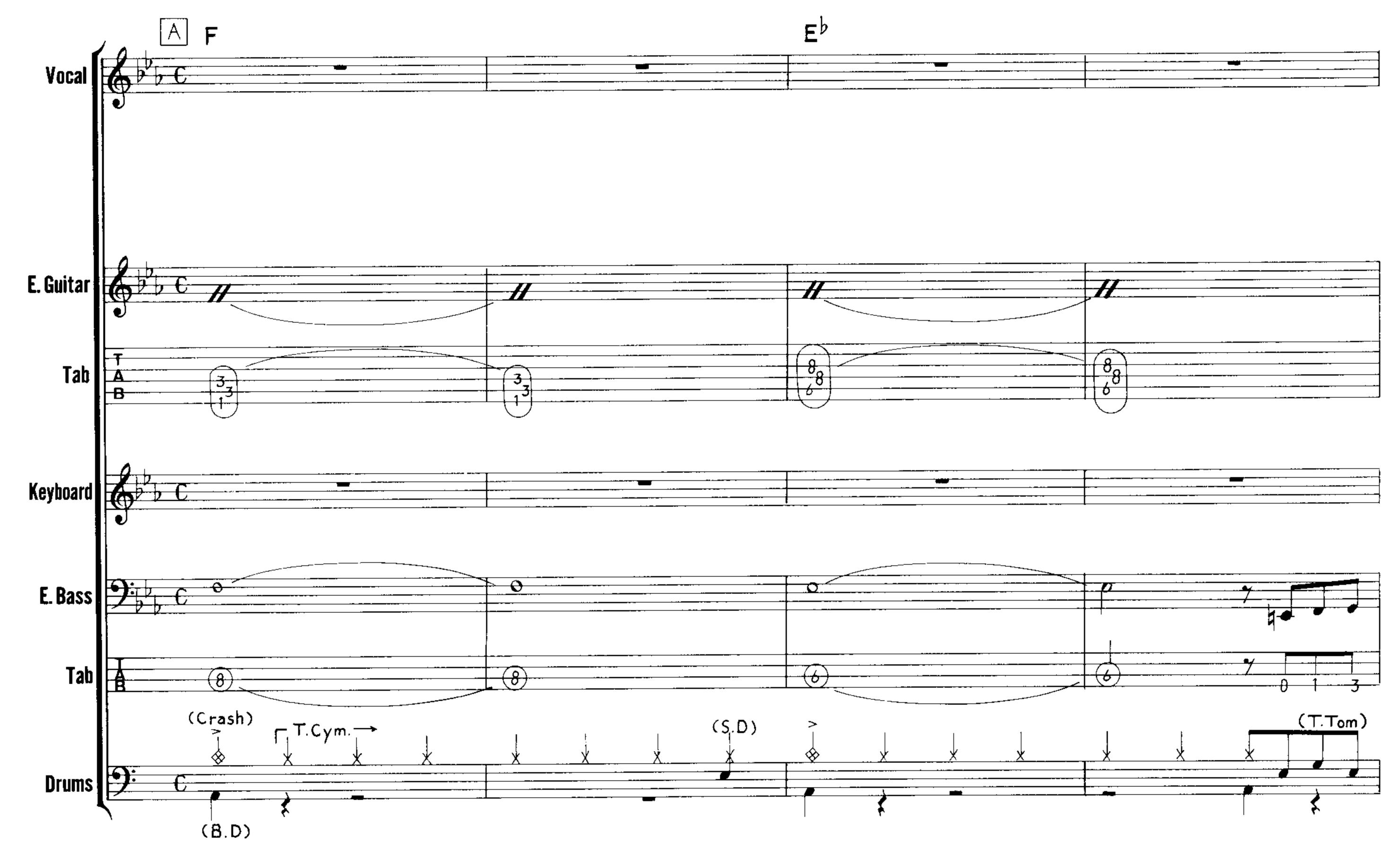
サブ・ミッション

Words & Music by Steve Jones, Paul Cook, Glen Matlock and John Rotten

タテノリのビートが印象的なミディアム・ファストのナンバーだ。ヴォーカルは歌詞を上手くリズムに乗せることがポイントになる。この曲では多分シンセと思われるキーボードも入っているが、使い方はS.E.に近い効果音的なものだ。音色的にはオルガンに近いが、立ち上がりの良いセッティングにしないと16分音符のタイミングが遅れてしまうので気をつけたい。ギター・パートは同じパターンのくり返しが多いので曲の構成を間違えないように注意しよう。ブラッシング音はあまり目立たせないで、リズムを

正確にキープするためのものだと考えること。

□3~4小節めではもう1台のギターによるハーモニクス・フレーズが重ねてある。
バッキングのコードがCであるにもかかわらず、弾いているハーモニクス音がGというコードの構成音なので、ギター1人のバンドでプレイする場合にはカットしてしまった方が自然だろう。ベースはスタカートとテヌートとの区別をレコードから聴きとってプレイすることが大切だ。ドラムスはテンポ・キープに注意してしっかりとしたビートを叩き出そう。



Rights for Japan administered by WARNER/CHAPPELL MUSIC, JAPAN K.K., c/o NICHION, INC.







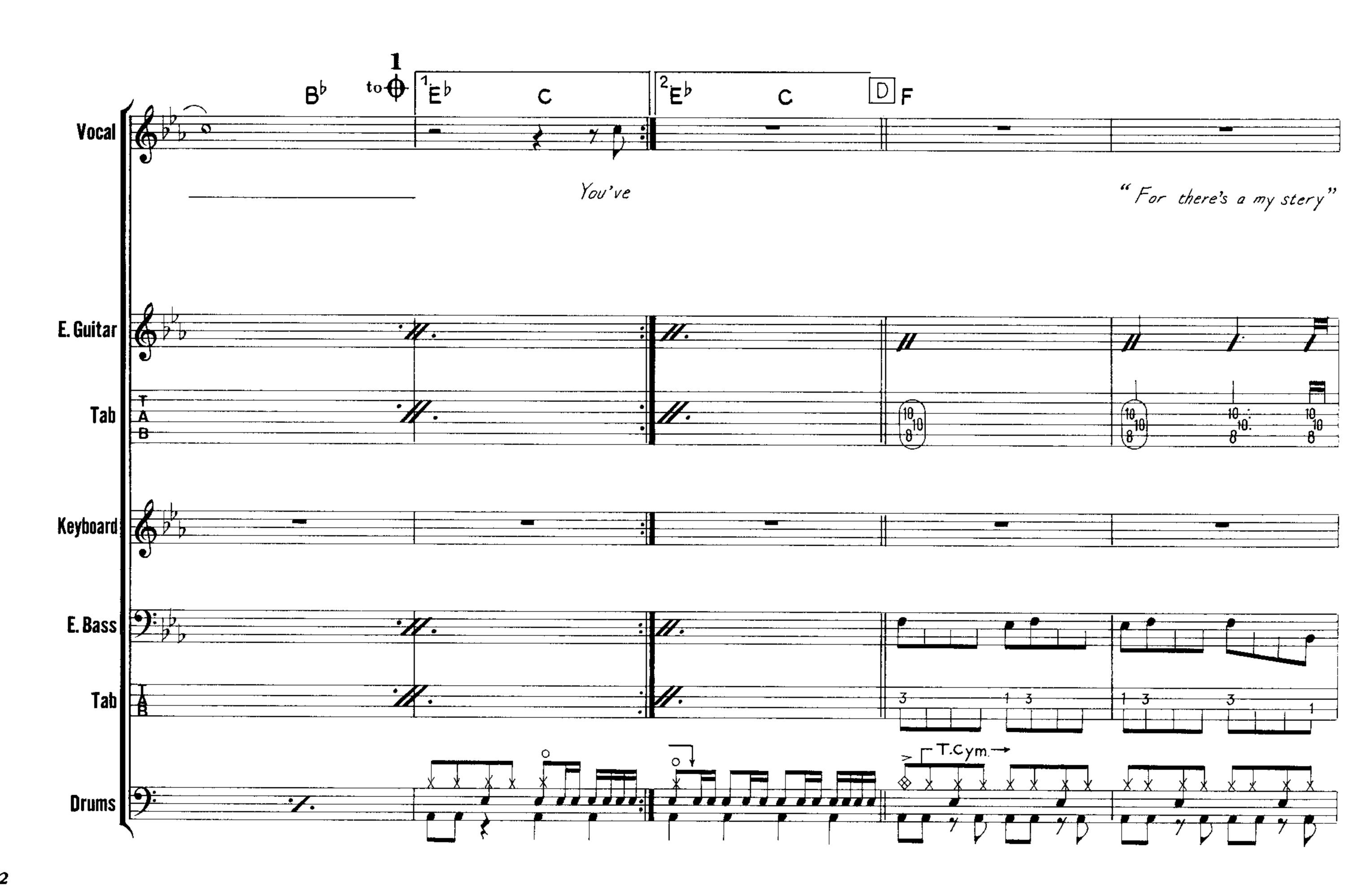


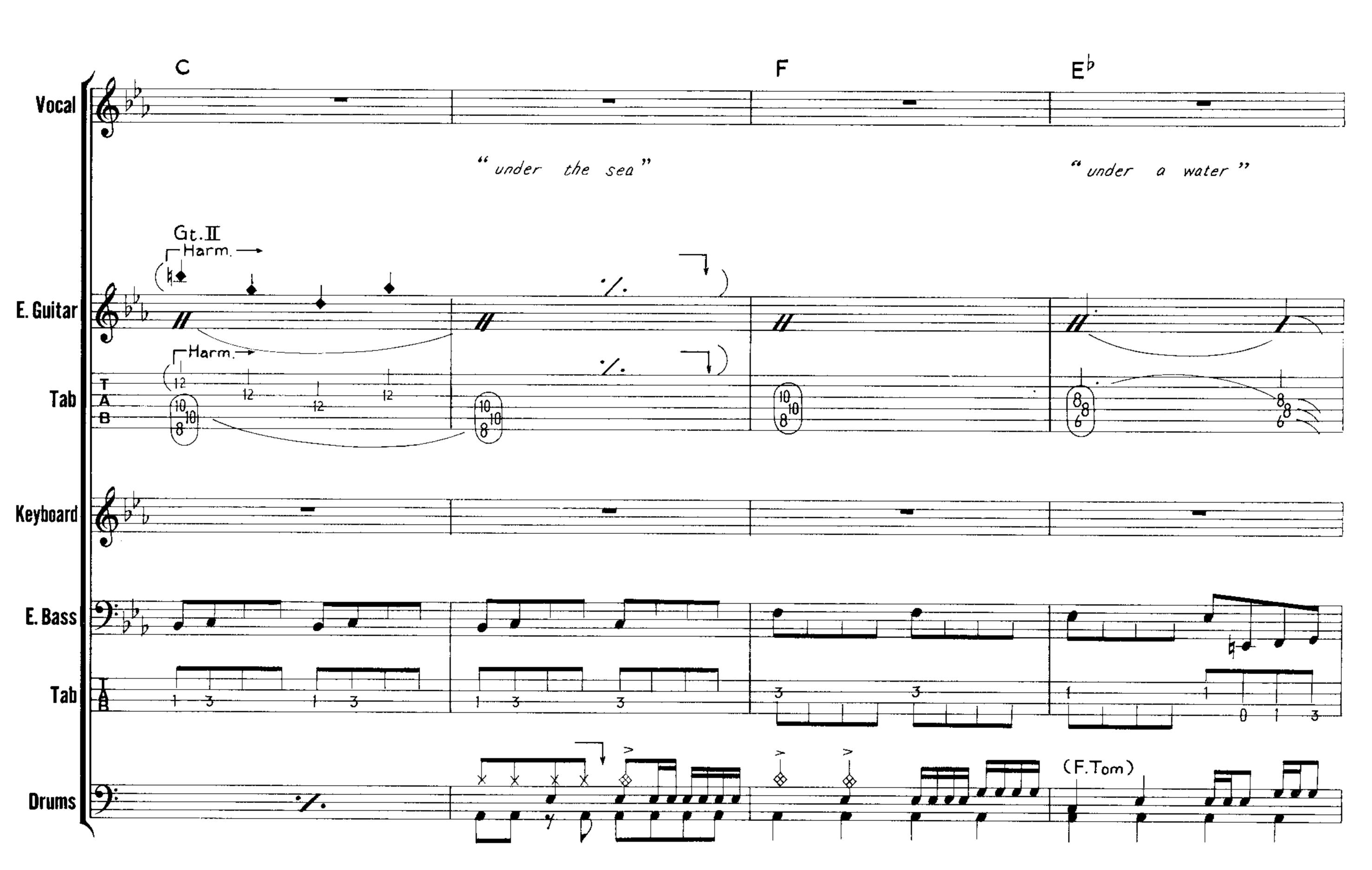
















B♭

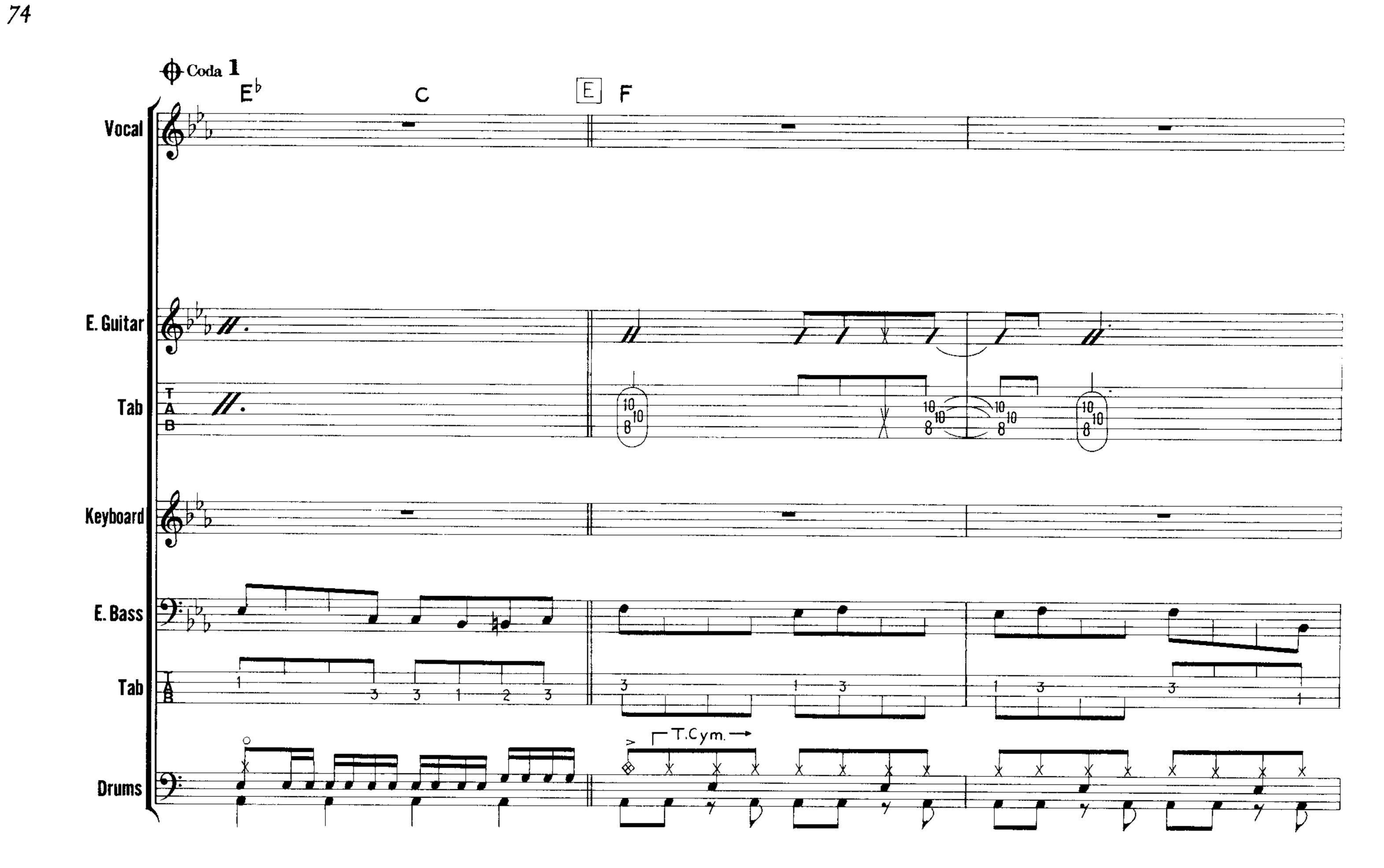
Εþ

86

"come, share it"

E. Guitar

Tab 🛕





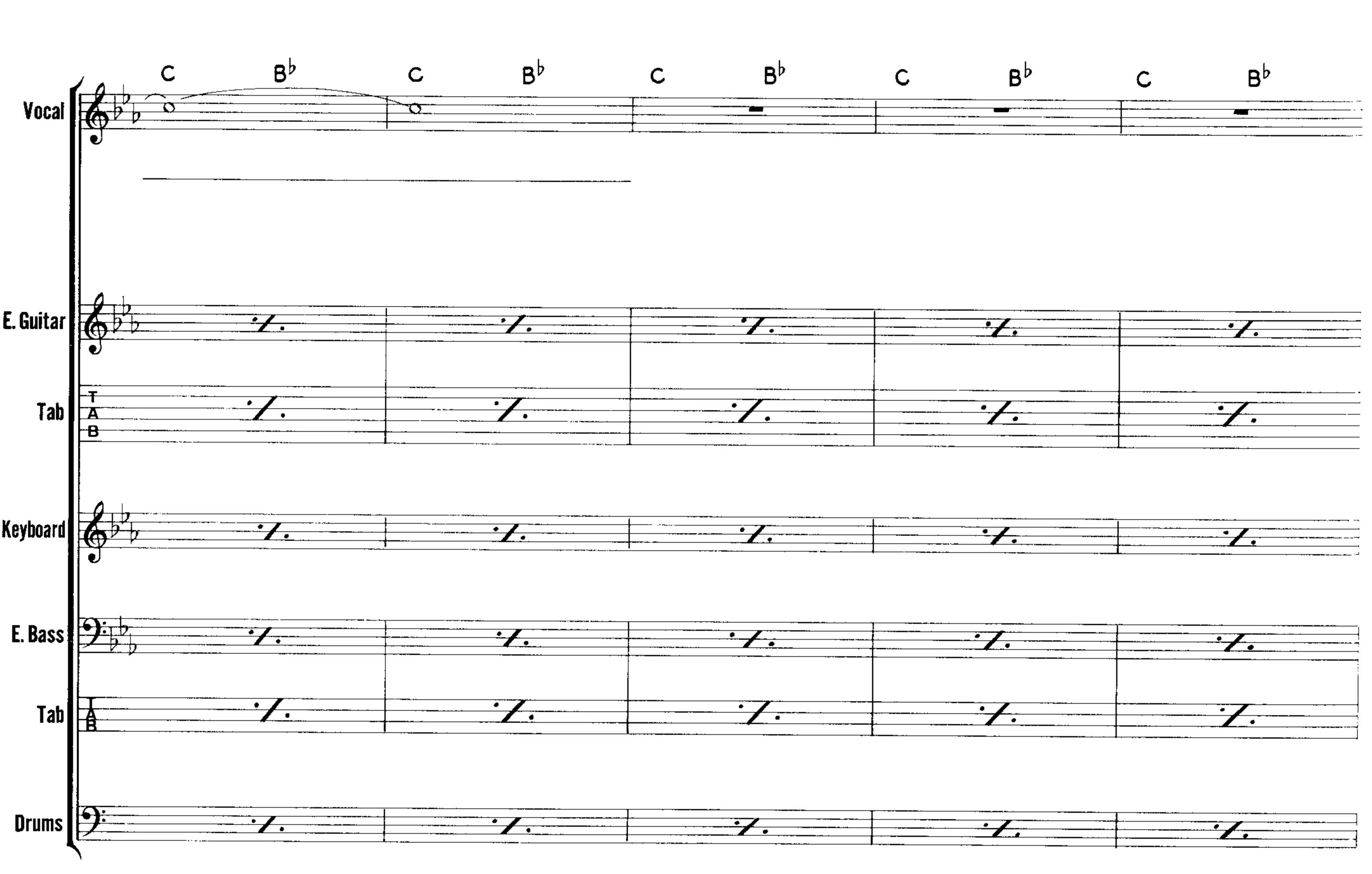
E

"under the water" "under the sea"



"Cos it's a secret"

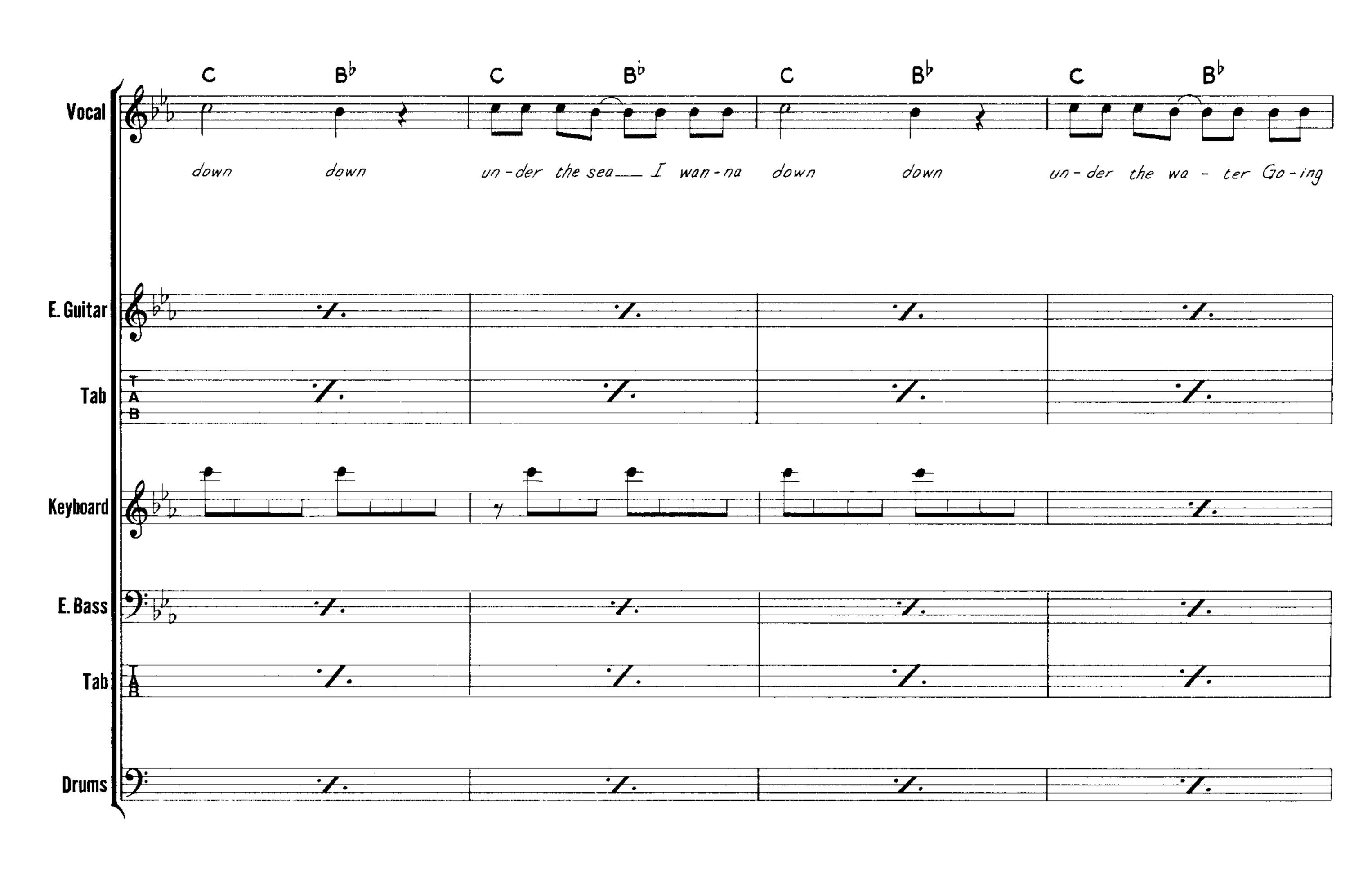














PRETTY VACANT

プリティ・ヴェイカント

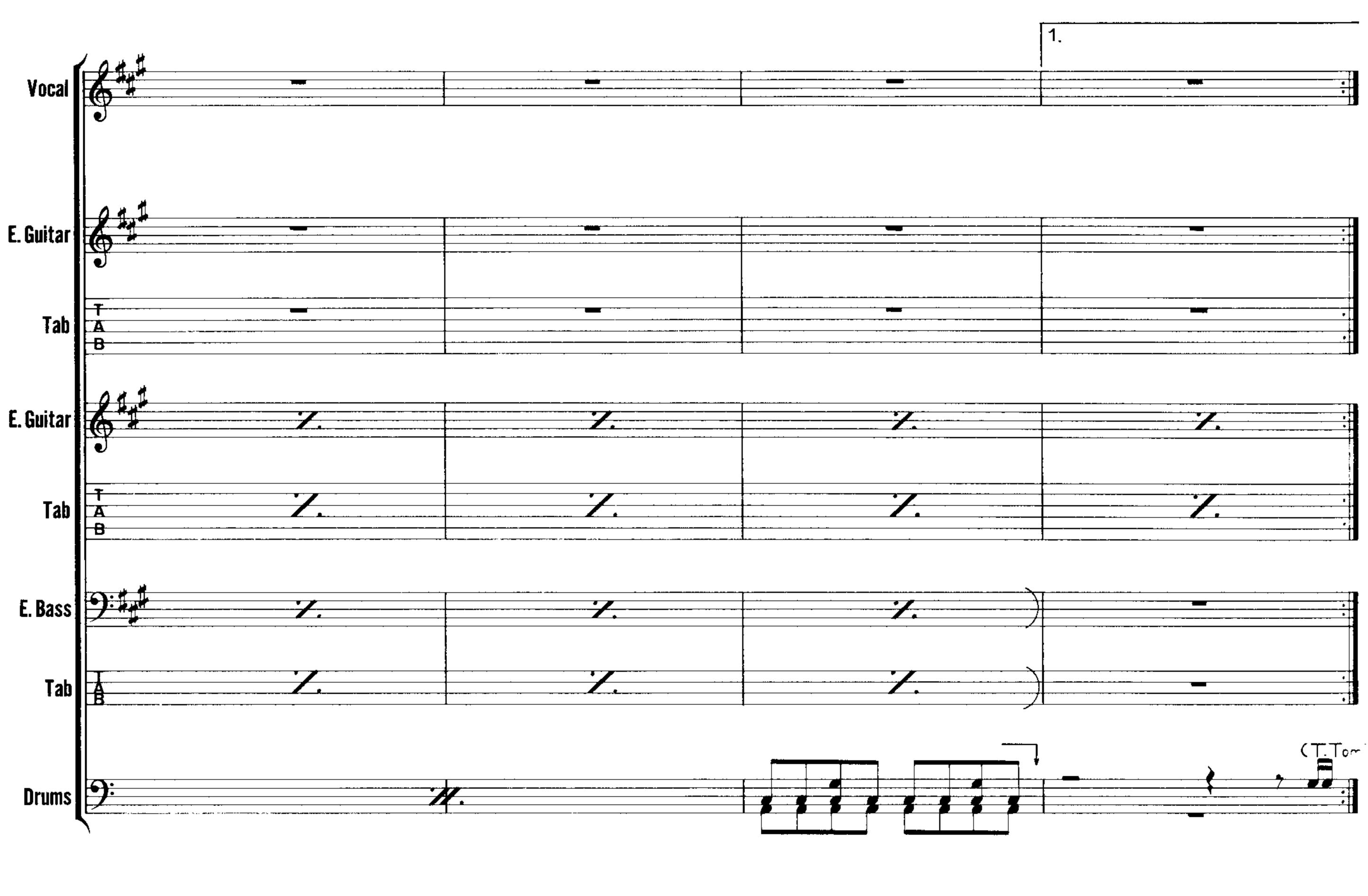
Words & Music by Steve Jones, Paul Cook, Glen Matlock and John Rotten

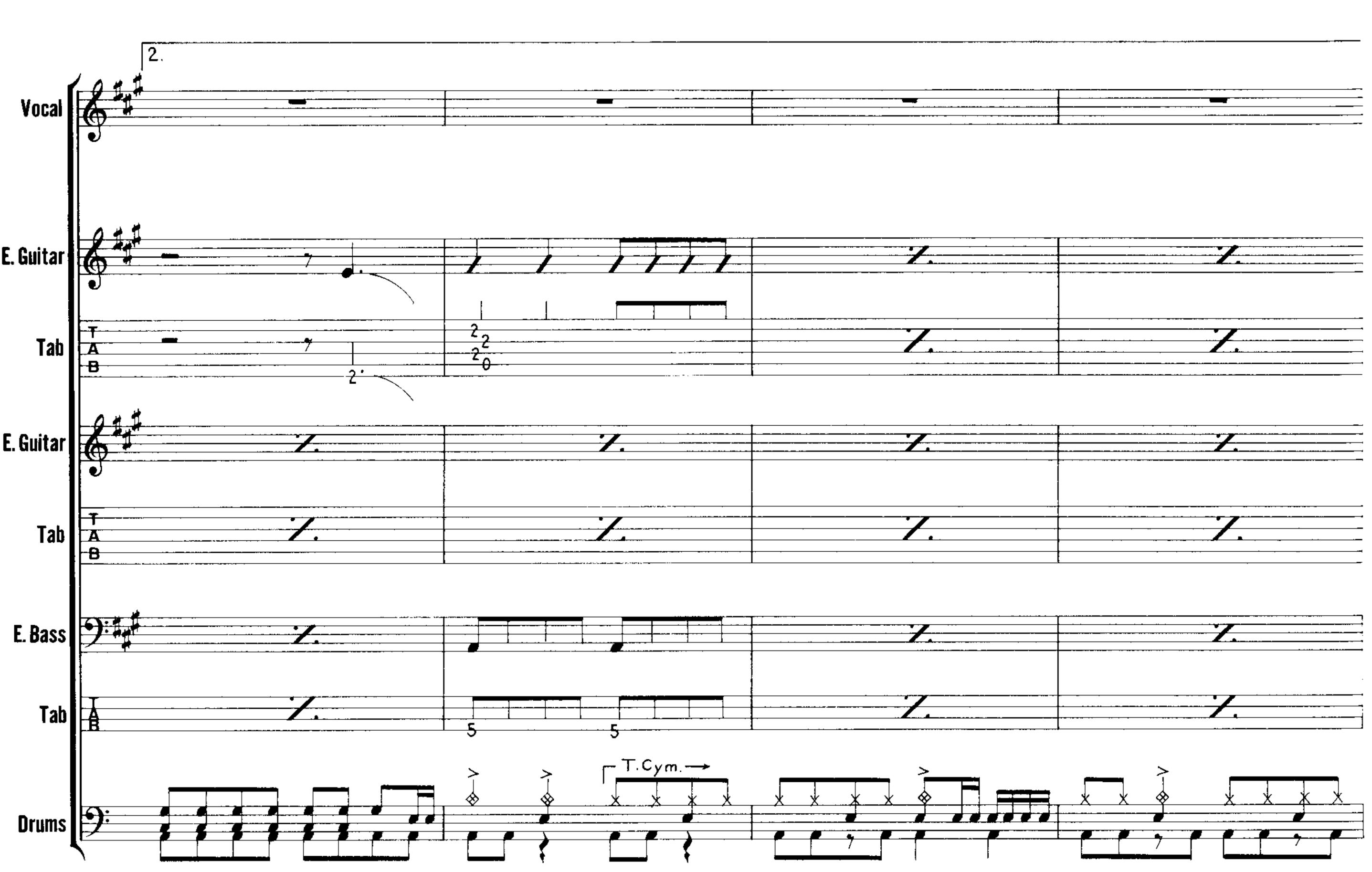
ギターのイントロが印象的な、ブリティッシュ特有のフィーリ ングを持つ曲だ。ギター2によるそのフレーズでは、5弦を軽く ブリッジ・ミュートして全体のサウンドがあまり二ゴってしまわ ないように注意して弾こう。レコードでは2弦までピッキングし てしまっている小節もあるが、一応譜面のパターンが正解だろう。 団からのバッキングでは、低音弦での5度コード・プレイが中心 になる。16分音符のピッキングをリズムに乗せるように気をつけ ながら力強いプレイを心がけてほしい。 23~4小節めでは6弦 3 フレットの音をコードの音に組み合わせている点がポイントだ。

ここでは3・4弦を人差指でまとめて押さえ、6弦を中指で押さ えるフィンガリングがベストだ。中指で6弦を押さえるのと同時 に5弦開放に中指のハラをふれさせて音をカットすることがコッ だと言えるだろう。ギター1の方は時折オブリガート的なフレー ズを弾いているだけだが、実際の演奏では休みの部分はギター2 とユニゾンでプレイした方が良いだろう。ベースは203~4小節 のように開放を使ったオクターブのフレーズでのカッティングに 注意して弾くこと。ドラムスはハイハットとトップ・シンバルと の使い分けに気をつけて変化をつけよう。





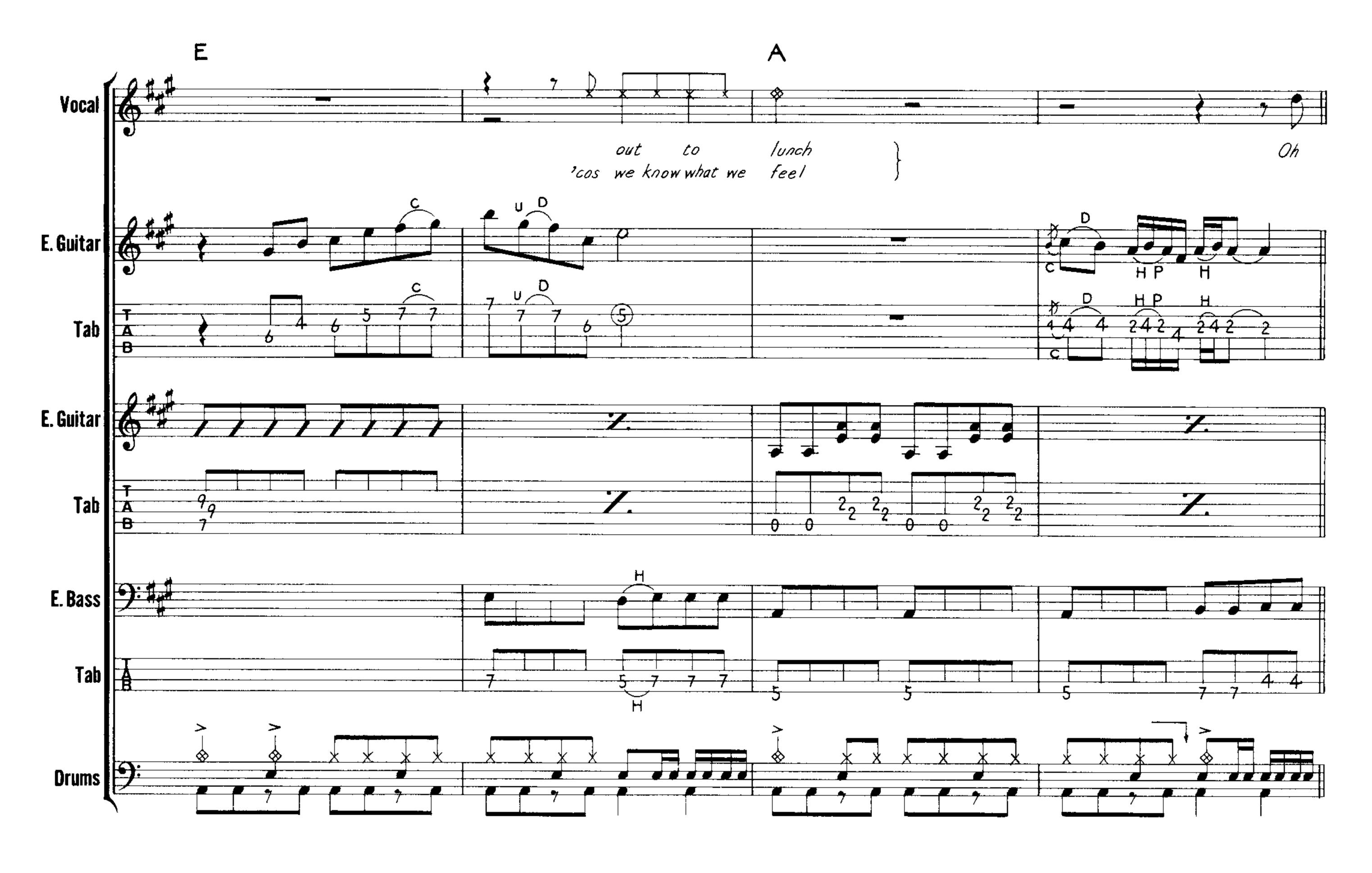




























NEW YORK

ニューヨーク

Words & Music by Steve Jones, Paul Cook, Glen Matlock and John Rotten

ミディアム・テンポのストレートなナンバー。ロックン・ロールというものをある意味で破壊したとされるピストルズだけれども、こういう曲調も10年以上経った今となってみれば、広い意味でのロックン・ロールそのものに他ならないことがよくわかる。この曲のポイントはリズムを比較的ゆったりと、しかもあんまりダラダラとしないようにキープすることだろう。例によってギター・パートとベース・パートはシンプルなパターンのくり返しが多い反面、ドラムスが色いろなパターンの変化を付けることで、全体があまりにも単調になってしまうことを防いでいる。したがってリズムのカナメはやはりドラムスということだ。特にバス・

ドラムは、国のアタマをはじめとして、要所に8つ打ちをおりませてテンポ・キープし、クラッシュやスネアでアクセントを付っるというパターンが多い。譜面上は2バスのプレイに見えるかもしれないが、これは普通のシングルのプレイだ。全体としてギターやベースのポジショニングは、必ずしもこのタブの通りにやるなければいけないというものではなく、気分で他のポジションを使ってもまったく大勢に影響はないはず。バッキングで2本のキターが重なっている場合は、どちらかというと上段のパートを誤いた方がベターだろう。もちろんギターが2人のバンドなら、急担して弾けばOKだ。











show _____

still _____

to⊕

oh out on those









F#



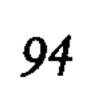




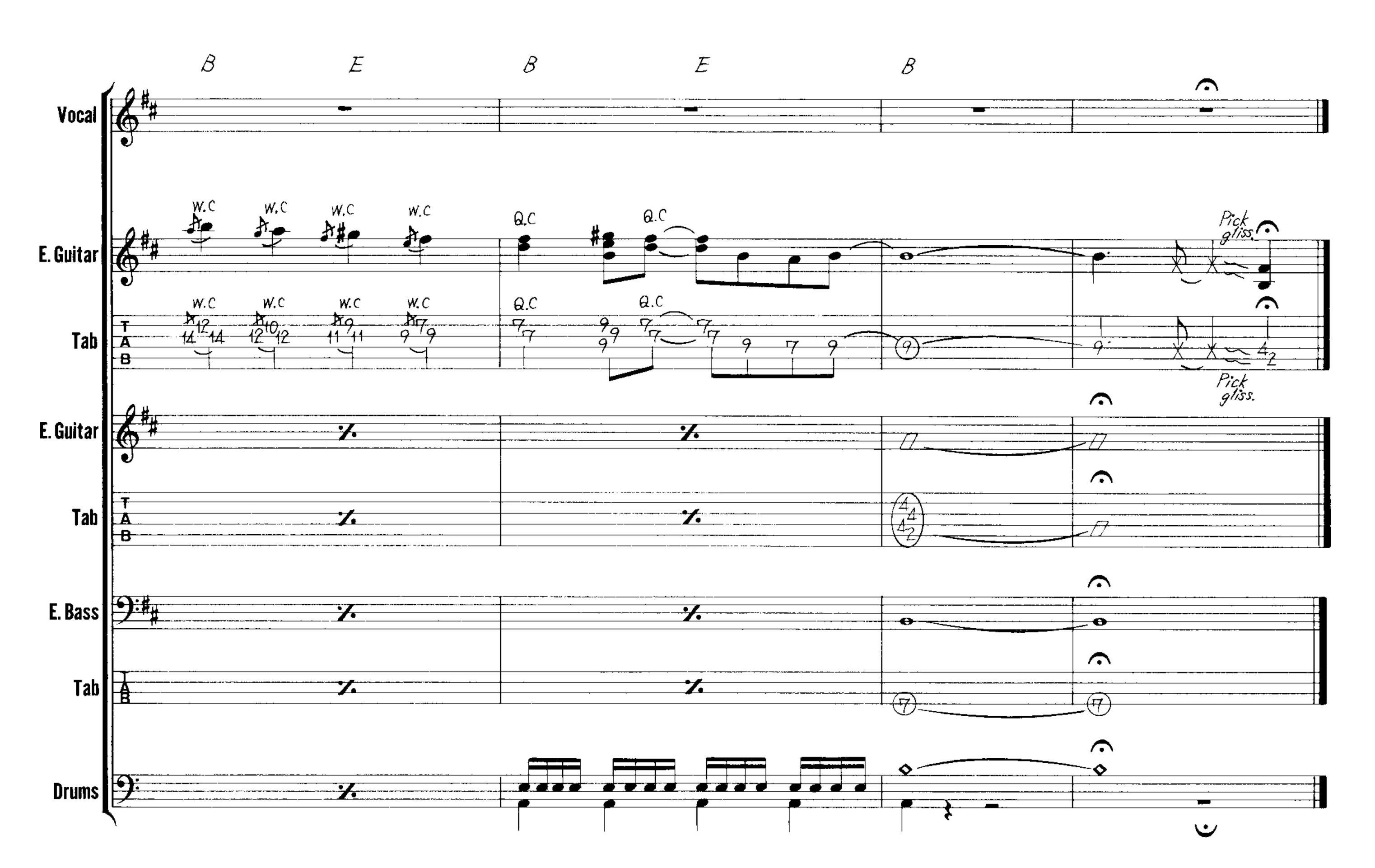














Words & Music by Steve Jones, Paul Cook, Glen Matlock and John Rotten

レコード会社の移籍にともなって、それまで属していた会社(E. M.I.)に対してウップンをぶちまけているナンバー。いかにも彼ららしい内容の曲だ。この曲は元もとのチューニングがあかしいのか、それともマスター・テープ段階で回転数を操作しているのか、とにかく本来のA=440Hzのチューニングとはちょっとばかりズレている。したがってキー的にもここでは B^b にしたけれども、実際はBでプレイして、チューニングが多少低くなっている可能性も捨てきれない。なぜそれが問題になるかというと、ギターのポジショニングがまったく変わってしまうからで、たとえば $\frac{6}{6}\cdot\frac{8}{5}$ ・ $\frac{8}{4}$ の B^b コードなどは、その場合 $\frac{2}{5}\cdot\frac{4}{4}\cdot\frac{4}{3}$ のBコードのポジショ

ンが当てはまり、どちらかというとその方が自然なように思える。 どちらにしてもギター・パート、ベース・パートはコード・チェ ンジさえスムーズにこなせれば、特に難しいプレイは出て来ない はずなので、BでやろうがB^bでやろうが、弾けないということは ないはずだ。また、実際のプレイ上の注意点としては、同じパタ ーンのくり返しが多い分、自分が今どこを弾いているのかわから なくなってしまわないように気をつけることだろう。リズムは基 本的にシンプルな8ビートで、シンコペーションが多いものの、 ダウン・ピッキング中心の弾き方で素直にノレるものだ。ギター・ パートはブリッジ・ミュートをうまくコントロールしよう。



© 1977 by WARNER/CHAPPELL MUSIC LTD./ROTTEN MUSIC LTD.

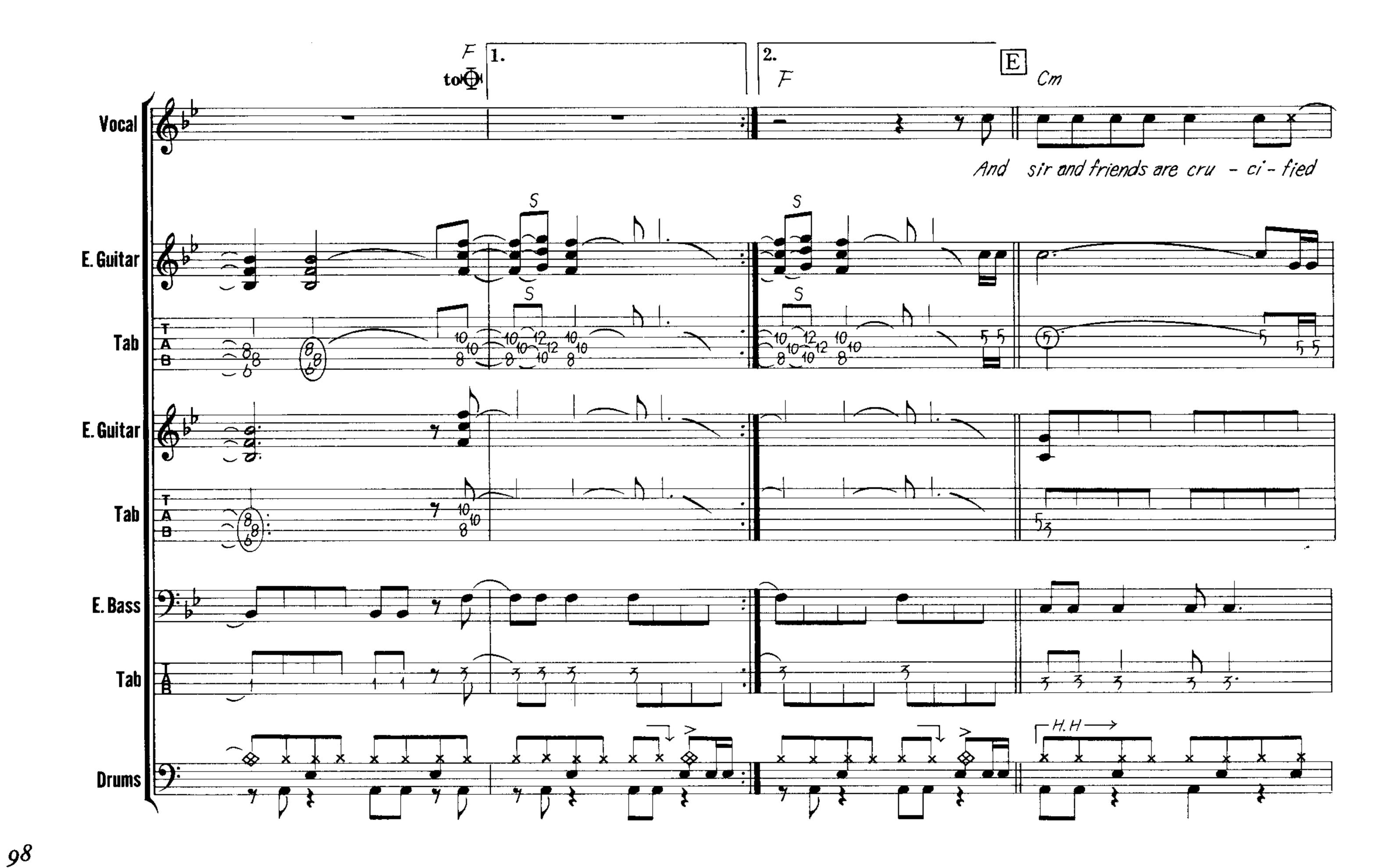
All rights reserved Used by permission

Rights for Japan administered by WARNER/CHAPPELL MUSIC, JAPAN K.K., c/o NICHION, INC.





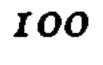






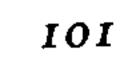






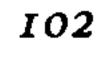








⊕Coda











I do not need the pres-sure (E.M. I.__) I can't stand the use-less fools_(E.M.I._